

Communication Report 2014

小泉産業株式会社グループ コミュニケーションレポート

新しい着眼と独自の発想で 新たな価値を創造し 人と社会に夢と感動をつくり出します

編集方針

小泉産業株式会社グループは、CSR(企業の社会的責任)活動を報告するため2004年から毎年レポートを作成しています。レポートには、目的とメディア特性に応じて、冊子とWEBサイトの2種類があります。

■ 冊子(本レポート)

本レポートは、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションのさらなる活性化を目的に、当社グループと社内外のステークホルダーの皆様との“対話”を中心に編集しています。お客様や協力会社様をはじめ社外のステークホルダーの皆様からのご意見・ご要望を掲載するとともに、仕事に対する従業員の想いを多数紹介しています。また、本年度より「快適」、「環境」、「パートナー」、「人」の“4つのキーワード”を報告テーマとして設定し、本レポートで展開しています。

■ WEBサイト

当社ホームページでは、当社グループのCSR活動を広く公開することを目的に「社会と環境への取り組み」WEBサイトを設けています。サイトでは「グループ全体」に共通した取り組みと、ステークホルダーや事業内容が異なるグループ内の主要2事業である「照明事業」「家具事業」に分けて報告しています。また、それぞれ「社会」「環境」への責任と課題、それらに対する取り組みについて報告しています。

▼ 「社会」と「環境」への取り組みWEBサイト
<http://www.koizumi.co.jp/csr/>

報告対象組織

本レポートでは、持株会社である小泉産業(株)と国内事業会社4社、合計5社の取り組みについて報告しており、その詳細は以下のとおりです。

- 小泉産業(株)
- コイズミ照明(株)
- コイズミファニテック(株)
- (株)ハローリビング
- コイズミ物流(株)

報告対象期間

2013年4月1日から2014年3月31日まで。
(当社2013年度)

発行日 2014年7月
(次回発行予定 2015年7月)

KOIZUMI 4 Keywords

小泉産業株式会社グループは、“4つのキーワード”で、ステークホルダーの皆様との

コミュニケーションを広げていきます

快適な暮らしのための
さまざまな製品・サービスで。



Ecology
環境



環境配慮型製品の開発と
事業活動での環境保全を。

取引先、サプライヤとの
良好な関係づくりを。

Partner
パートナー



People
人



従業員はもちろん、
地域の“人々”に対しても。

INDEX

グループ経営理念/編集方針/報告対象組織/報告対象期間	1
小泉産業株式会社グループの事業	3
経営者からのメッセージ	7

コイズミ照明(株)の取り組み

- 1 グランフロント大阪に
LED照明提案型スタジオ「KLOS」オープン 11
- 2 水辺のプライベートリゾート
「セトレ マリーナびわ湖」の照明設計に参画 15

コイズミファニテック(株)の取り組み

- 1 愛されるブランドをめざし、
新たなお客様・商品・売り場を積極的に開拓・開発 19
- 2 拡大するシニア市場
その期待に応える商品開発と販売体制を強化 23

(株)ハローリビングの取り組み

- 住宅分野で培ったノウハウとグループシナジーを活かし
新たな市場・お客様を開拓 27

コイズミ物流(株)の取り組み

- 環境調和型ロジスティクスの展開をめざし、
効率的な物流システムの構築と
CO₂削減への取り組みを継続的に推進 29

小泉産業(株)の取り組み

- 1 3回目を迎えた学習デスクの寄贈活動
九州・沖縄8県の児童養護施設に50台を寄贈 31
- 2 一人ひとりの気づきと成長を促すことで
プロフェッショナルをめざせる環境づくりに注力 33

KOIZUMI TOPICS 35

ステークホルダーへの責任と課題 37

CSRマネジメント/環境マネジメント/
コンプライアンス/リスクマネジメント

KOIZUMIブランドのあゆみ 39

小泉産業株式会社グループ各社の概要 41
編集後記

グループ全体で、 付加価値の高い快適空間を提供します

小泉産業株式会社

本社所在地 〒541-0051
大阪市中央区備後町3-3-7

代表者 代表取締役社長 梅田 照幸

創業 1716年(享保元年)

設立 1943年6月25日

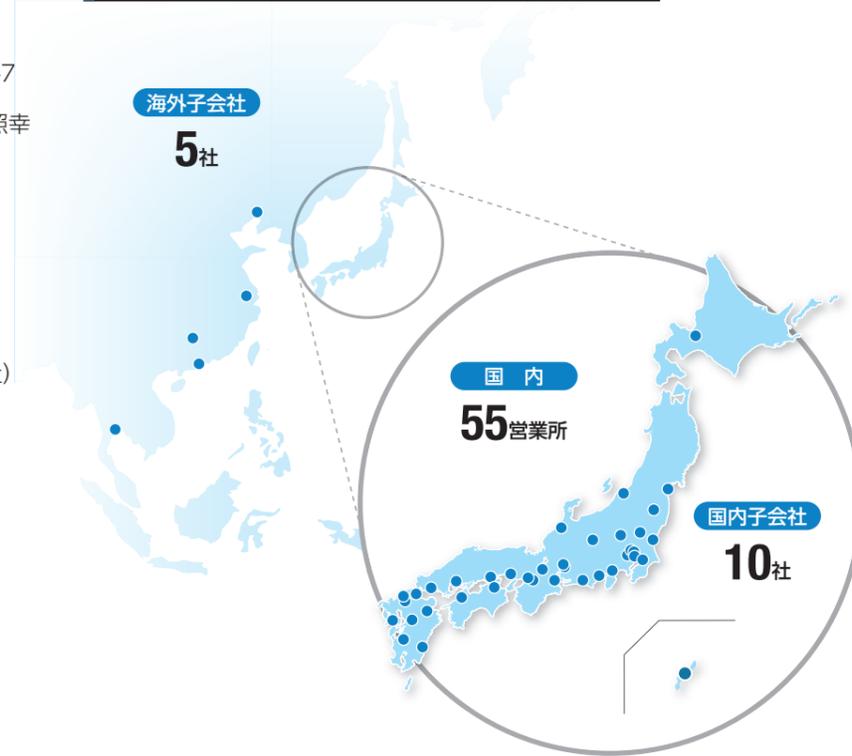
資本金 1,575百万円

従業員 1,599名(連結)

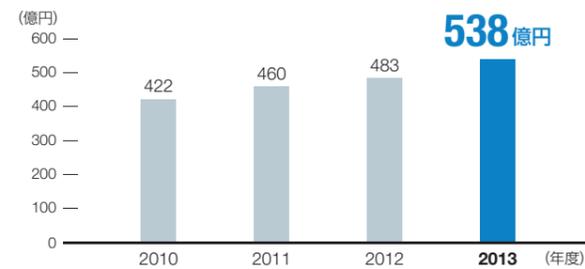
グループ会社 15社(うち連結対象10社)

売上高 53,875百万円(連結)

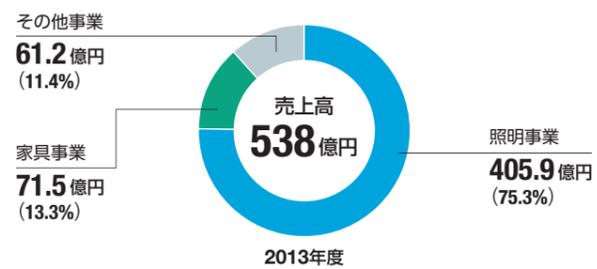
小泉産業株式会社グループの営業所ネットワーク



グループ売上高(連結)



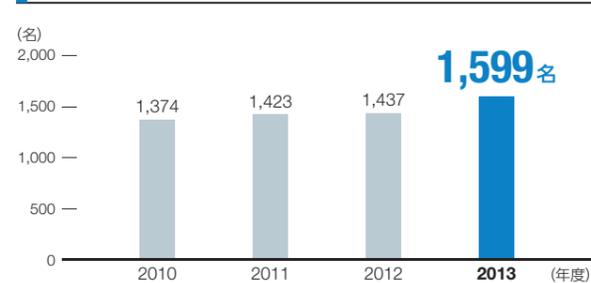
事業別売上高構成(連結)



グループ経常利益(連結)



グループ従業員数



照明事業

「あかり文化」の創造をめざして

住宅照明と店舗照明を事業領域に、照明器具の企画・開発から各種空間の照明設計までをトータルに展開。あかりによる快適な空間づくりを通して、新しい「あかり文化」の創造と省エネに貢献できる製品の提供をめざしています。

コイズミ照明株式会社

照明器具の企画・開発・製造・販売

コイズミ照明デバイス株式会社

照明器具部品の販売および輸出入、
照明器具組立

コイズミライティング株式会社

照明器具の製造

青垣コイズミ照明株式会社

照明器具の製造

小泉産業(香港)有限公司

照明器具の企画・開発・製造・販売

東莞小泉照明有限公司

照明器具の開発設計・組立製造・販売

克茲米商貿(上海)有限公司

照明器具の企画・販売他



住宅で



商業施設で



ホテル・公共施設で



業務施設で



家具事業

暮らしを「科学」し快適生活を提案

子どもの成長を支える「学習家具事業」を中心に、高齢者向けの自立支援家具や施設向けの設備家具事業を展開。人の暮らしを「科学」し、子どもや高齢者の健康・安全と環境に配慮した製品・サービスを提供しています。

コイズミファニテック株式会社

学習環境家具および介護機器などの企画・開発・製造・販売

小泉家具(大連)有限公司

学習環境家具の販売

コイズミサンギョウ(タイランド)LTD.

家庭用家具・店舗用家具・特注家具・店舗用什器の企画・開発・製造・販売



北米産アルダー材の質感とシンプルなスクエアのデザインの「レイクウッド」



自分だけのデコレーションでおしゃれなデスクにできる「デコプラ」

学習家具



お部屋のスペースや人数に応じてレイアウトが選べる「ビー」



お子様の個性を大切に、楽しくコーディネートできる人気のカラーデスク「CDファースト」

書斎家具



オーク天然木の風合いがハイイメージを演出する「WISE」



モダンな北欧スタイル「Liten」



ウッディとモダニズムの融合「WISE NEX」

生活サポート家具



在宅ケアベッド「プロケアエクシード」

自立支援ベッド「ウエルケアS」



車椅子の高さにも対応する天板高可変式のヒーター付ダイニングセット



サイズオーダーだからスペースに合わせてジャストインできる収納家具シリーズ



肘付き、座面高さ調節付きで立ち座りが楽なリクライニングチェア

住設販売事業

インテリアから家電、内装材まで各種インテリア製品や内装材などの住宅設備機器の販売・施工サービス事業を全国に展開し、快適な生活空間をトータルに提案しています。

株式会社ハローリビング

住宅設備機器の販売・取付工事

株式会社サンシャイン

住宅設備機器の販売・取付工事



物流事業

価値あるロジスティクスを創造

グループ内各社のロジスティクス機能を担う一方、培った経験とノウハウを活かし、幅広い業界のお客様に最適な物流ソリューションを提供しています。

コイズミ物流株式会社

物流事業・倉庫業・物流システム開発販売業務



セットアップ・サービス事業

物流の枠組みを超えたサービスを構築

家具・什器・設備などの納品据付、設置のピフォーアからアフターまで、さまざまな業界で役立つプロフェッショナルサービスを提供しています。

株式会社ホリウチ・トータルサービス

ホテル、会社施設等への家具・什器・設備等の搬入設置業務



グループ統括

「価値創造の専門集団」をめざしてそれぞれの事業領域で専門性を発揮するグループ各社を統括し、KOIZUMIブランドの価値向上をめざしています。

小泉産業株式会社

持株会社として、グループ統括機能と各社の事業の管理・監督



新時代にイノベーションを創造・発信する 企業グループとして 新たな価値創造に挑戦し、 社会に貢献していきます



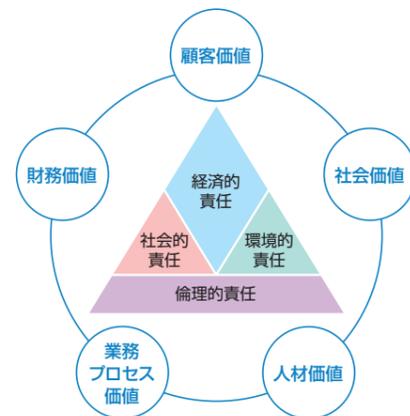
「5つの価値」と「4つの責任」を果たすことが、 小泉産業株式会社グループにとっての社会的責任

小泉産業株式会社グループは、持株会社の小泉産業のもと、暮らしやビジネスの空間・シーンに応じた最適なあかりを提案する「照明事業」と、未来を担うお子様の学習環境づくりや高齢者のセカンドライフを支援する「家具事業」を核に、物流、住宅設備機器販売など幅広い事業を展開するグループ会社から成り立っています。

各社が独自に事業を展開しながら、「新しい着眼と独自の発想で新たな価値を創造し、人と社会に夢と感動をつくり出す」というグループ経営理念の実現に向けて、豊かで快適な暮らしを提供する「価値創造の専門集団」をめざし続けています。

グループが果たすべきCSRについては、2006年に「5つの価値（顧客価値、社会価値、人材価値、業務プロセス価値、財務価値）」の向上を図り、「4つの責任（経済的責任、社会的責任、環境的責任、倫理的責任）」を果たすことであると明確化し、従業員一人ひとりが日頃の業務の中で責任を果たすべく、努めています。また、事業のグローバル化が進む中、海外子会社においても、理念の浸透を図るべく、経営リーダー層の育成に力を注いでいます。

「5つの価値」と「4つの責任」



これらCSR経営の根幹となるのが、利益を出せる企業体質であることは言うまでもありません。2012年度から始まった第三次中期経営計画（～2014年度）では、「新時代の変化に挑戦する」という方針を掲げ、「人材のプロフェッショナル化」「新しい顧客・商品の創造」「成長に向けた戦略的投資」に的を絞って、人事戦略、経営戦略の両輪で、個人と企業の成長と、生産性の向上に取り組んでいます。

「グループシナジー効果の強化」が成果を上げた 第三次中期経営計画2年目

その第三次中期経営計画の2年目にあたる2013年度は、3期連続で売上、経常利益ともに更新することができました。消費税引き上げ前の駆け込み需要の影響もありますが、特に経営戦略のひとつとして強化に取り組んできた「グループシナジー」が発揮され、成果を上げたことが背景にあると考えています。

グループ各社が、自社の利益を図ることを前提としながら、お客様や技術、設備の共有を進め、協力して提案活動を行うクロス営業や仕入先の紹介などを積み重ねてきた結果、お客様の要望に対しお応えできるレベルが上がった1年でした。例えば、コイズミ照明と

小泉産業株式会社グループの理念

社 是

人格の育成向上

グループ経営理念

新しい着眼と独自の発想で
新たな価値を創造し
人と社会に夢と感動をつくり出します

グループ行動理念

- 積極果敢にチャレンジし、目標を必達します
- 自由活発なコミュニケーションを行い、明るく、元気に、同志とともに進みます
- 互いに学び、人間力を高めめます
- 現場、現物、現象を基本に、お客様の課題を解決します
- 三方よしの精神で、信用と信頼の向上を図ります
- 社会規範を遵守し、地域、社会、地球環境に貢献します

グループビジョン

私たちは、ゆたかで快適な暮らしを提供する愛される「価値創造の専門集団」をめざします



コイズミ物流が協力し、東日本大震災以降のエネルギー問題や電力料金の値上げといったお客様が抱える課題にソリューションを提案するなど、大きな成果が上がりました。製品開発についても、従来、コイズミ照明が開発していたデスク用のスタンドライトを、学習デスクを利用されるお客様のニーズをより多く掘りこんでいるコイズミファニテックでも開発できるようにするなど、お客様本位の取り組みが進みました。

グループのシナジー効果を考えるとき、共通して掲げるKOIZUMIブランドの価値をいかに高めていくかは重要な課題です。2013年度に各社の経営トップが参加して立ち上げた「ブランド委員会」では、改めてその重要性を再確認し、ブランドの本質の明確化とブランドメッセージの策定に着手しました。

利益を出せる体制強化を図るため、グループを再編

利益を出せる体制の強化に向けて、2013年度はグループの再編も行いました。2013年12月には、ホテル什器の搬入・設置などの請負事業（FFE事業）を行う（株）ホリウチ・トータルサービスをグループ子会社に組み入れました。照明、家具事業との連携によって、ホテルの改装案件については、搬入・搬出、施工からメンテナンスまですべてを一貫できる体制が整いました。

このようにグループの事業規模が拡大する中では、各社の情報システムを強化し、業務の効率化と生産性の向上を図っていくことが不可欠になっています。そこで、コイズミ情報システムについては小泉産業に統合し、グループの情報システム強化を担っていく位置づけを明確にしました。

幅広い企業様とのパートナーシップを構築し、未来の空間を創造・発信する「KLOS」をオープン

2013年11月には、中期経営計画で掲げた「戦略的投資」のひとつとして、JR大阪駅前の大型複合施設「グランフロント大阪」に、LED照明の提案型スタジオ「KLOS（クロス）」をオープンさせました。未来のあかりのあり方を提案したKLOSには、東京からも建築設計事務所様や住宅メーカー様の設計や研究開発の担当者様が来場され、研修にご利用いただくなど、想像以上の反響をいただいています。

同じ施設内にショールームを持つ、住宅設備機器メーカー様やインテリアメーカー様、空調機器メーカー様など、空間創造に関わる企業様との間で、お客様の共有化も進み、スタッフレベルでも交流が始まっています。多くの企業様と未来の空間について語り、パートナーシップを深め、イノベーションを創造・発信できる場として発展させていきたいと考えています。

売上1,000億円をめざす次のステージに向け新規事業開発にも積極的に挑戦

こうした成果を踏まえて、2014年度は「『Next Stage』への挑戦」という経営方針を掲げました。第四次中期経営計画の最終年度にあたる2017年度に、グループ売上1,000億円の達成をめざすという次のステージにおいて、人々が求める“豊かさ”とは何か、また、それに向けて我々は何ができるのか。従業員と経営トップが直接語り合う「社長と語る会」などを通じて問い直すところから、今年度はスタートしました。

目標の達成に向けて、新規事業開発にも積極的に取り組んでいく方針です。2014年4月には、コイズミ照明は、ベアリング大手のミネベア（株）様と、電気大手の岩崎電気（株）様とともに、合弁会社を設立。無線通信技術を用いて、エネルギー使用量の削減をめざすスマートビルおよびスマートシティ向けの照明機器開発を行うことを目的に、すでに研究が始まっています。今後も、企業同士、商品同士の最適な組み合わせを考え、先頭を切って市場を創造していける企業グループをめざし、挑戦していきます。



1 コイズミ物流 春日部営業所
2 コイズミ情報システム ホスト開発
3 コイズミ照明 広島・山口営業所



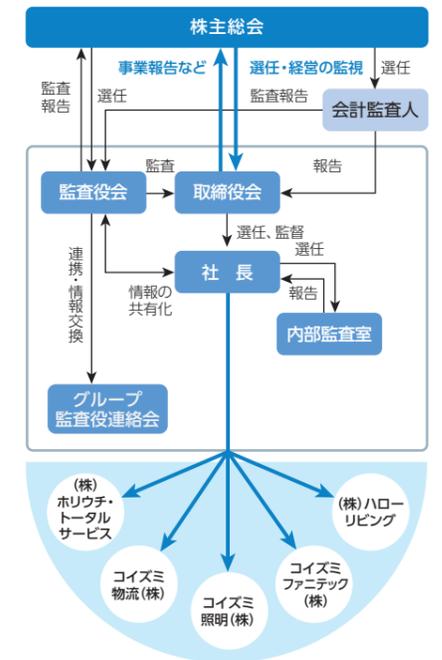
人々が求める豊かさに貢献できる企業グループをめざしてまいります

社会貢献活動については、児童養護施設への学習デスク寄贈活動が全国に広がり、定着してきました。一方、四半世紀続けてきた「コイズミ国際学生照明デザインコンペ」が2012年度でいったん終了しました。代わりとなる活動として、先般、（公社）インテリア産業協会関西支部長に就いたのを機に、業界で働く女性の職場確保や活躍支援について、民間企業としてできることを模索していきたいと考えています。

少子高齢化が進み、社会保障制度のゆくえなど、先行きが不透明な時代ですが、最終的に人々が求める豊かさとは「他人の幸せを考える」ことではないかと考えています。事業活動はもちろん社会貢献活動においても、そうした豊かさに貢献することで、従業員も働きがいを感じられる企業グループを今後もめざしてまいります。

小泉産業株式会社
代表取締役社長

グループガバナンス体制図



グループ各社で「語る会」を開催

グループのコミュニケーション活動として、2010年度にスタートした「社長と語る会」は2013年度も実施範囲を広げ、グループ各社で開催されました。コイズミ照明では「役員と語る会」、コイズミ物流では「西原社長と語る会」、コイズミ情報システムでは部門ごとに「課長と語る会」などが開催されました。小泉産業がグループとして推進している「梅田社長と語る会」も岡山営業所、広島・山口営業所合同、高松・松山営業所合同の3回を開催し、これまでに延べ14回、参加者総数は135名となりました。

コイズミ照明(株)の取り組み ① グランフロント大阪に LED照明提案型スタジオ 「KLOS」オープン



国内最大級の複合型施設「グランフロント大阪」に、2013年11月、LED照明の提案型スタジオ「KLOS(クロス)」がオープン。LED照明の新たな価値を提案し、さまざまなお客様とともに未来のあかりのかたちを創造・発信していくイノベーションの場をめざしています。



L EDに求められ始めたデザインや快適性といった 新たな価値を提案・発信できる場をめざして

東日本大震災以降、国内では省エネ・長寿命なLEDが急速に普及し、コイズミ照明(株)の商品もすでに8割をLEDが占めています。LEDが照明市場の中核になるにつれ、求められるものはパワーやコストからデザインや快適性にシフトしつつあります。そうした新たな付加価値を提案する場として「KLOS」を開設しました。

「KLOS(KOIZUMI LIGHTING OPERATION STUDIO)」は、西日本最大のターミナル、JR大阪駅前にあるグランフロント大阪のタワー A12階に位置し、広さは約400坪。大きく商品紹介と企業紹介のゾーンに分かれ、商品紹介ゾーンでは、最新の装飾系LED製品やおすすめ製品シリーズを、光の効果やデザインを確認しながら選定できるように展示。また、企業紹介ゾーンでは、技術品質、光品質、空間品質の各エリアで、コイズミ照明がLEDを「あかり」に変えるために改良を積み重ねてきたプロセスや、先駆的なテクノロジーなどを紹介しています。

グランフロント大阪には「複合的な価値を提供する」というコンセプトのもと、多くの住宅・住設・インテリアなどのメーカー様のショールームや店舗が入っています。空間創造に関わるメーカー様や異業種を含めた企業様とパートナーシップを構築し、お客様に複合的な価値を提案できる立地も、ヒト・モノ・コトのクロスをめざすKLOSのコンセプトにぴったりでした。

光の未来を創造する場。



〒530-0011 大阪市北区大深町4-20
グランフロント大阪タワー A12階
TEL.06-6485-5211
開館時間：10:00AM～6:00PM(予約制)
休館日：水曜日
(ただし祝日、祭日の場合は営業)
年末年始・夏季休暇

KOIZUMI's Voice

KLOSは、お客様がLEDに求め始めているデザインの美しさや快適さを空間全体で表現し、照明メーカー「KOIZUMI」の商品と企業ビジョンを総合的に体感していただける場です。空間構成も展示内容もすべてが当社としてのチャレンジ。プロユーザー様や感度の高いお客様に「来て良かった」と満足していただくために進化し続け、グランフロント大阪に入る住宅空間に関わるメーカー様とともに革新的な何かを「共創」する場をめざしていきます。



コイズミ照明(株)
社長室・広報室
照明研修インストラクター
亀之園 薫

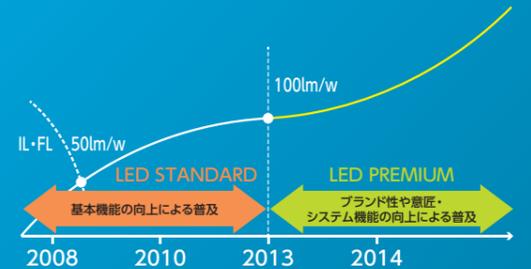
提 案型の展示とコンサルティングを通じて、 「なるほどね!」と共感していただける仕掛けを工夫

KLOSが従来のショールームと違う点は、単に商品を展示するだけではなく、空間提案型の展示である点です。例えば、住宅照明の商品紹介ゾーンでは、照明器具の光と実際の家具やフローリングなどのマテリアルの素材感や質感との調和にこだわり、光との組み合わせによるトータルなインテリア空間のコンサルティングができる工夫を取り入れた展示を行なっています。店舗照明も業態別に異なったコンセプトでゾーンを区切り、最適なライティング・テクニックを最新のトレンドを反映した空間でご確認いただけるよう提案しています。

また、住宅照明と店舗照明をワンフロアで展示していることも、特徴のひとつ。一般のお客様だけでなく、プロユーザー様にも、光の原理原則は住宅でも店舗でも変わらないことを理解していただきたいというのが、その狙いです。

「LEDの発光原理はこうなのか、なるほどね!」「この素材にはこういう照明が合うんだ」「この品質なら安心してパートナーになれる」と共感していただき、「KLOSに来れば、必ず発見がある」と思っていただけるような仕掛けを工夫し、お客様の課題解決につながる情報を常に発信し続ける場をめざしています。

LED PREMIUM 機能・性能の時代から、意匠・付加価値の時代へ



LED照明の機能・性能は、2013年に一定のレベルまで達し、光源として安定した実力を発揮するようになりました。これからはいよいよ快適な暮らし、最適な空間づくりが今まで以上に求められる時代になり、意匠・付加価値の時代が訪れたと言っても過言ではありません。



KOIZUMI's Voice

照明器具のデザイン室がマーケティングしたトレンドのインテリアと照明をあわせて展示するなど、KLOSには、当社としても初の試みが詰まっています。商品のコンセプトや背景を展示に具現化していくため、商品部や広報室とも密に連携し、訴求したい商品にあわせて展示もスピーディーに変えながら、新しい価値を創造し、提案できる場として育てていきたいと思っています。



コイズミ照明(株)
SR企画室
ライティングオペレーションスタジオ
KLOS館長

青木 佐織

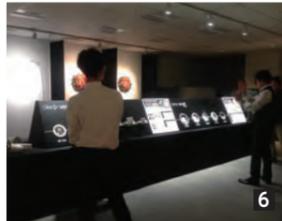
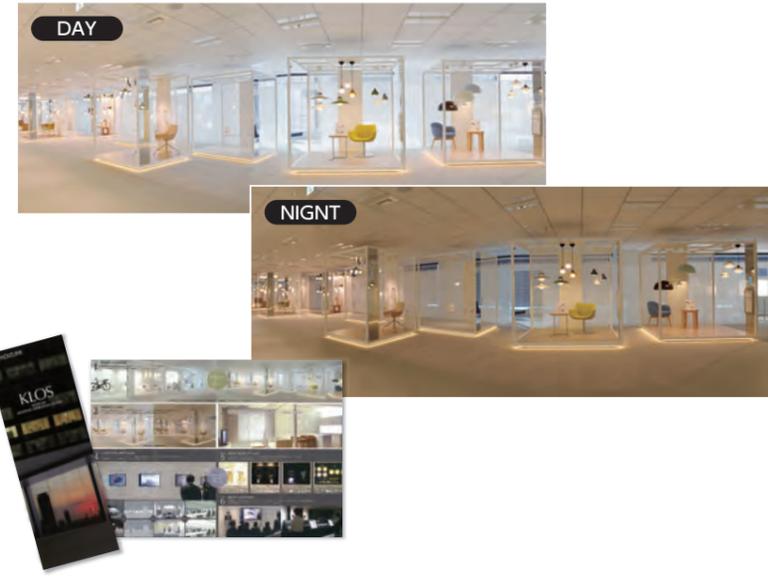
太陽光を活用して昼と夜を自在に演出し、明るさやモノの見え方の違いを体感できる空間

さらにKLOSの大きな特徴は、自然光を活用し、同じ空間で昼と夜で変化するモノの見え方を体感できる点です。全面ガラス張りの建物の12階には太陽の光をふんだんに取り入れることができます。この光を全長100mのブラインドでコントロールすることで、昼と夜の状態を自在に演出。ブラインドを開けた状態では自然光を取り入れた中でのあかりの見え方を、閉めた状態では照明器具そのものの明るさの見え方を体感していただけます。

コイズミ照明では、人間にとって基本の光である太陽光をお手本に、これまであかりの本質を追求してきました。KLOSでは、その姿勢を、太陽光を光源とし、空間自体を照明器具と見立てることで表現したいという想いがありました。空間デザインをお願いした(株)乃村工藝社様に想いを共有していただき、テキスタイルコーディネーター様とのコラボレーションも加わって生まれたのが、フロア全体を覆う光を通すやわらかな白い布の演出です。外光を取り入れるだけでなく、透光性のあるシェードを多用し、外光を受け止める工夫もKLOSのこだわりです。

NIGHT&DAY

昼と夜を瞬で切り替えることで、同一空間で変化する対象物の見え方、空間環境の違いを視覚的に体感いただけます。



- 1 2 SHOP&HOUSE
- 3 FEEL SPACE
- 4 HIGH QUALITY LED
- 5 LIGHT METHODS
- 6 7 NEXT LIGHTING

住宅関連メーカー様をはじめとした企業様とともに、空間を快適にするイノベーションの場に

オープン以来、従来にはなかった照明の展示手法は反響を呼び、約半年間でプロユーザー様、一般のお客様あわせて3,000組を超える方々にご来場いただきました。基本的にはご予約をいただき、お客様が抱える照明に関する課題に応じて、スタッフをご案内させていただく方法を取っていますが、住宅や空間づくりを検討するお客様が、近隣フロアにある住宅関連メーカー様のショールームに来られた際に興味を持って立ち寄り、逆にKLOSを見学後、他のショールームを回られたりと、グランフロント大阪の立地によるシナジー効果も生まれています。

案内にあたるスタッフは半数が照明に関する専門資格の保有者。他のスタッフもオープンまでにLEDをはじめとした照明の知識や接客の研修を積みました。フロアには店舗施設案件の開発営業部隊のオフィスもあり、新規のご相談をお受けすることも可能です。催事や研修を行うスペースも用意していますので、今後、さまざまな企業様と共同で空間を快適にするための展示をするなど、パートナーシップを組み合わせながら、イノベーションを起こす場として活用していきたいと考えています。

コイズミ照明がこだわり続けてきた「空間を快適にする光」。そのこだわりを原点に、常に時代に合った「その先のあかり」をKLOSから発信していきます。



お客様から一番に選ばれる「ファーストコールカンパニー」をめざして、専門知識の豊富な10名のスタッフがお待ちしています。

Stakeholders' Voice

KLOSは、三方が窓に囲まれ自然光に恵まれた区画であり、この特性を計画に生かしたいと考えました。明かり本来のあり方から見つめ直し、コイズミ照明様のあかりに対する“こだわり”や“想い”を伝えるメッセージ性のある空間に仕上げることで、近隣他社との差別化を図り、独自性を鮮明に伝える新しいかたちのショールームが誕生したのではないかと考えています。コイズミ照明



株式会社乃村工藝社
商環境事業本部
クリエイティブディレクター
松浦 竜太郎 様

の皆様は創造性豊かな方ばかりで、その人間味あふれるすばらしい社風をブランドイメージとして世の中のより多くの方々に知ってもらいたいと素直に思いました。今後も、たくさんの新しいファンが増えることを願っています。

KOIZUMI's Voice

日本の大学を卒業後、2012年に入社し、中国進出を支援する部署を経て、KLOSの立ち上げから関わっています。毎日、ご案内するお客様からLEDについて多くの質問をいただき、商品部や営業部と連携してお答えする中で、私自身、多くのことを学んでいます。大阪で最もHOTなスポット、グランフロント大阪のKLOSにぜひお越しいただき、自然光と照明のあかりとの調和をご体感ください。



コイズミ照明(株)
SR企画室
ライティングオペレーション
スタジオ スタッフ
ハン エン ロ
範 行 路

コイズミ照明(株)の取り組み ②

水辺のプライベートリゾート 「セトレ マリーナびわ湖」の 照明設計に参画



2013年9月に滋賀県守山市の琵琶湖畔にオープンしたプライベートリゾートホテル「セトレ マリーナびわ湖」。地元の木や土、石といった自然素材を使い、快適性にこだわった建築空間の照明設計に、コイズミ照明(株)が参画しました。

自然と一体となった建物の特徴を活かすため、「照明器具の存在感をなくす」という課題に挑戦

コイズミ照明では、光の空間設計を専門に行うLCR(Lighting Creative Room)を設置し、30年以上にわたって、大規模施設や店舗などあらゆる空間の照明提案を行ってきました。お客様の空間企画や設計段階からプロジェクトに参画し、照明計画をトータルにプロデュースしています。

今回、照明提案をさせていただいた「セトレ マリーナびわ湖」は、ホテル・ウェディング・レストラン事業を通じて地域コミュニティの活性化をめざす(株)ホロニック様の関西3店舗目となるホテル。建築設計は、国内外で数々の賞を獲得されている芦澤竜一建築設計事務所様が、照明監修は岡安泉照明設計事務所様が担当されました。琵琶湖からの風や光を取り込んだ自然と共生する建築というコンセプトを活かすため、「照明器具の存在感をできるかぎり抑えて、光のみが活きるようにしたい」という強い要望を持たれていました。

コイズミ照明ではこれまでに、ホロニック様の「ホテルセトレ(神戸)」のリノベーションなどで照明提案をさせていただいていましたが、今回の新築計画は非常に特殊な案件でした。担当したのは、当時LCR歴6年目で、年間大小100件ほどの案件に携わる桂響子。「見たこともないような独自性のある建築で、周囲の自然を尊重しつつ、光でどう見せるか。またディテールへのこだわりに応え、照明器具をいかに存在感なく納めていくか。すべてが初めての経験であり、挑戦の連続でした」と振り返ります。

KOIZUMI's Voice

コンセプトを踏まえ、芦澤建築設計事務所様やホロニック様とは、何度も打ち合わせや実験を重ねイメージを共有しながら進めていったため、空間や目的に沿った光を追求することができました。難題であった照明器具の納め方も、建築躯体側で細かな工夫を行っていただき、他では不可能と思えるような提案も採用していただきました。今回ほど時間や力をかけて試行錯誤した案件はなく、大変貴重な経験でした。LEDはコンパクトかつハイパワーな器具もたくさん出てきています。この案件で得た経験とLEDならではの特性を、さらに次の照明提案に活かしていきたいと思えます。



コイズミ照明(株)
西日本営業本部
西日本商環境開発部
LCR大阪 デザイナー

桂 響子



エントランス側



ロビーテラス



バンケットルーム

SETRE
REVER HOTELS
MARINA BIWAKO

比叡山を眼前に琵琶湖を望む全14室のプライベートホテル。滋賀県の木、土、石をふんだんに使い、自然と共生した建築が大きな特徴です。

タイトル背景写真撮影：建築写真家 市川かおり氏
他、コイズミ照明(株)撮影

複雑な形状の建物の床や天井に埋め込む器具からの光の伸び方を繰り返し検証し、お客様に提案



照明器具の取り付け位置の打ち合わせ



照明効果確認試験

「照明器具の存在感をなくしたい」というご要望に加え、建築の複雑な形状が、この案件の特徴であり、最大の難関でした。自然光や風を考慮した環境工学に基づいて設計された空間は、床以外は天井も壁もすべて複雑に傾斜していました。そこで、多用したのが、照明計算ソフトでの輝度グラフィックによるシミュレーションです。床下に設置した間接照明の光がどれくらい伸び、どの程度の照度を確保できるかを確認し、また、数値だけでは伝わりづらい明るさの程度は、イメージ写真や実際の器具を用いて、ホロニック様とイメージの共有化を図りました。

また、ほとんどがスラブ剥き出しのコンクリート打ち放しのため、既製品のダウンライトなどの取り付けが難しく、器具を見せないようにするためにコンクリートに直接器具を取り付けるスペースを切り欠く必要がありました。特に難しかったのが、チャペル壁面の曲面部分を足元から照らし上げる間接照明。複雑に傾斜角度が変化するため計算ソフトでの再現は難しく、実物大の模型を作成して実際に使う器具を用い、アールの形状ごとに器具を入れるふところの大きさと目線に入らないぎりぎりの位置との取り合いを割り出す実験を繰り返しました。コンクリートを切り欠いて納める器具については一つひとつ詳細図を作成し、躯体が立ち上がったからは現場に伺って、ゼネコン様や電気工事の担当者様と打ち合わせを重ねました。

多彩なLED光源を使用し、外から中へ連続する光や新郎新婦の想いが伝わるような照明空間をめざして

「芦澤先生は照明の重要性を強く意識しておられ、空間の意図を汲んで照明イメージをご提案すれば、建築の造作など細部まで工夫して受け入れていただきました。そのため、こちらとしても不可能だと諦めずに提案できました」と桂。例えば、琵琶湖からの風を受けてエオリアンハーブが音を奏でるチャペルでは、風の通りと同様に屋外のアプローチから内部の祭壇まで連続した光を提案。ホテルの顔となる吹抜けロビーも、エントランス側から琵琶湖へと抜ける開放感を出すため、屋内外に連続した光としました。また、ホテルの階段部分は、手すりの下部にコンパクトなLED器具を入れ、歩行照度を確保しながらも器具を見せない配慮をし、低い位置からのやさしい光によって、リラックスできる印象を生み出しました。

また、ご利用客の視点に立ったホロニック様からのご要望は、照明計画の具体化に非常に役立ちました。そのひとつが、新郎新婦の感謝の気持ちが伝わるような照明効果の工夫です。新郎新婦が登場する式場入口の扉上部の壁に照明器具を設けたことは、一礼する際にも顔に影をつくらず、かつ、ウエディングドレス全体に光が当たる効果を演出できました。

提案開始から竣工まで約2年。お客様や関係者の方々とともに照明空間を追究した経験をLCRのノウハウに置き換え、新たな空間提案に活かしていきます。



- 1 ミュージックホール(昼)
- 2 ミュージックホール(夕)
- 3 パンケトルーム(昼)
- 4 パンケトルーム(夕)
- 5 ロビー
- 6 階段
- 7 客室



エントランス

廊下

KOIZUMI's Voice

私は今回の照明計画が進む中で、納入販売いただく代理店様と取付工事をご担当される電設会社様との間で、ご予算対応と建設工程に合わせた納期調整などを円滑にするという役割で、本案件に関わりました。特に、当社の製作室が調達を担当する別注のLED間接照明器具は、取り付け納まり寸法に失敗が許されないため、現場での取り合い変更の対応から手配確認まで、細心の注意を払うことを心掛けました。お引渡し前のライティング調整では、自然の素材をふんだんに取り込んだすばらしい空間に対し、お客様のご意向に沿った光環境づくりにお役に立てたのではないかと、本件に関われたことをうれしく感じました。

コイズミ照明(株)
近畿営業部 京滋営業所
玉城 靖史



本社での模型検証
(モックアップ実験)

Stakeholders' Voice

琵琶湖護岸部の生態移行帯のエコトーンを取り戻しながら、自然環境と一体となるホテルということが計画の主旨でした。照明計画においても建築計画の主旨やイメージに合い、機能面でも最大の効果を生み出すための打ち合わせを繰り返し重ねました。設計段階からミュージックホールなどポイントとなる部分のモックアップモデルによる検証を行いました。現場においては、実物器具による照射面の調整実験を行ないながら光の当り方などの詳細な確認をし、決定していきました。今回の計画では、さまざまご提案やモックアップでの検証実験にご協力をいただき、建築計画にふさわしい照明計画を実現することができました。



芦澤電一建築設計事務所
城田 研吾 様

Stakeholders' Voice

当ホテルは、チャペルも兼ねるミュージックホール棟のアプローチ照明に、高い評価をいただいております。特に男性からは「カッコいい! 吸い込まれそうな奥行きを感じる」と好評です。建築の特徴を引き出す照明で、結婚式前の撮影の背景としてもご利用いただいております。また、ホテルの外構照明も周囲の環境と良く馴染んでいて、景色の邪魔をしていないところが良いと感じています。コイズミ照明さんに対する今後の要望としては、照明計画ご提案の段階で明るさなどのイメージが、さらにわかりやすかつかめるものがあれば良いと思います。



株式会社ホロニック
ホテルセトレ所屬
ゲストリレーション課MGR
高田 由梨 様

コイズミファニテック(株)の取り組み ①

愛されるブランドをめざし 新たなお客様・商品・ 売り場を積極的に開拓・開発

コイズミファニテック(株)は、学習家具や書斎家具などの商品ラインナップを拡充するとともに、新たな販売ルートや売り場の開拓に取り組み、幅広いお客様に長く愛されるブランドづくりに取り組んでいます。

Comfort
快適

プライベート空間やデスクワークに快適性を求める 大人向けの書斎家具のラインナップを拡充

学習家具のブランドメーカーであるコイズミファニテックは、子どもたちの健やかな成長を願って、安全性を第一に、勉強のしやすさや使いやすさといった機能性や快適性にこだわって、商品を作り続けています。長年のモノづくりの姿勢によって、「学習家具のコイズミ」と多くのお客様に認知され、新入学用の学習家具では、国内シェアトップを誇っています。

さらに幅広いお客様にコイズミファニテックを知っていただき、商品のファンを増やしていきたいという想いから、近年は、大人向けの書斎家具の商品ラインナップも増やし、新大学生や新社会人をはじめ、プライベートスペースに快適性を求める幅広い世代に向けて販売しています。

2013年度は、初めて女性を意識し、北欧デザインのシンプルでやさしい印象の書斎家具「Liten(リトゥン)」を開発。アクセサリなどをディスプレイできるコレクションチェストなどもコーディネートでき、インテリア性も重視しました。また、長時間デスクワークをされる方を念頭に、背もたれの前後の稼働域の広いSOHOチェアや、デスクワークに適したあかりを選択できるLEDデスクライトなど、学習空間を科学してきたノウハウを活かした商品も発売しました。

KOIZUMI's Voice

コイズミファニテックでは、家具専門店様を中心にお客様とのコミュニケーションを重視した販売活動を展開してきました。加えて、さらに多くのお客様との接点を増やすため、新たな市場開拓を活発化させています。その拠点となるショールームは1カ月半に一度はレイアウトを変え、新鮮味のある展示に努めています。学習家具以外の商品も増えていますので、ぜひ一度お越しいただき、当社の商品を体感していただければと思っています。



コイズミファニテック(株)
市場開発部 部長
山本 哲也

Liten



ナチュラルな北欧デザインの女性向け
書斎家具。インテリアのコーディネ
ート性も高めました。

ショールームに新市場開発の専門部署を設置して、 新しいビジネスモデルの構築を活発化

また、家具の販売環境の変化を踏まえ、新たなお客様や売り場・販路の開拓、それに対応する商材開発にも積極的な取り組みを開始しています。

家具を扱う流通店舗様などのプライベートブランド商品の開発もそのひとつです。2013年度は、全国展開しているインテリア家具ショップ様とのコラボレーションにより、商品のデザインや販売・販促はお客様が、構造設計や生産管理、品質保証はコイズミファニテックが担い、お客様のブランド名による「キッズ家具」を発売しました。それまで子ども向け商品がなかったお客様と、販路を広げたいコイズミファニテック双方のニーズが合致したのですが、お客様にとっては、製品の品質面を学習家具のコイズミが責任を持っていることで、消費者の方に安心して商品を購入していただいています。また、オフィス用品などのネット販売ルートを通じた商品の販売も、2013年度から開始しました。

こうした新市場の開拓を加速させていくため、2014年4月には、営業部から独立する形で市場開発部を新設。一般のお客様との接点であるショールームにオフィスを構え、BtoBのお客様に対してもコイズミの商品のデザインや機能性、素材、品質などを体感していただき、ビジネス素材としての可能性を検討していただける場として、ショールーム機能を活用した活動を展開しています。



KOIZUMI's Voice

商品の素材や使用時の安定性といった安全面、また、操作性など、機能性重視の方向性はもちろんですが、永く使っていただける学習家具づくりをモットーとしているからこそ、インテリア性を追求し個性を出していくことも、これまで以上に重要な要素だと考えています。変化するお客様のニーズや市場の動向に柔軟に対応し、新入学のお子様から大人まで幅広い年代のお客様に、「コイズミファニテックの商品っていいね」と言われるようなモノづくりにこれからも挑戦していきます。

コイズミファニテック(株)
商品部 開発課
製品開発室

坂口 勝



機能性を追求しながら、インテリア性も重視し、多様なニーズに応えられる商品展開を推進

主力の学習家具についても、安全性や機能性に加えて、コーディネート性やインテリア性を重視した商品開発に力を入れています。

例えば、2013年度に発売した女の子向けの「Orlea(オルレア)」シリーズは、全体にレースのモチーフを採り入れた、フェミニンでかわいらしいデザインが特徴です。同じテイストのベッドやデスクマットも用意し、統一したインテリアを楽しむことができます。フルオープンできる引き出しや目の環境を考えたLEDライトも標準装備。天然木の使用や付属のレースシールは後からはがしやすくなるなど、永く使っていただけるロングライフ設計の考えは、従来からの設計思想です。

また、キラキラとしたデコレーションが人気を集め、継続展開している「DecoPri(デコプリ)」シリーズには、黒のフレームにメタリックパープルの天板を組み合わせたカラーを追加。トレンドに敏感なお子様やお母様から好評をいただいています。

ベーシックなタイプの学習机についても、同じ機能でありながら材質の違うシリーズを展開するなど、それぞれの商品に個性を持たせ、お客様のニーズの多様化に応える製品ラインナップの拡充を図っています。

新商品の長を引き出す売り場提案のため、緊密なコミュニケーション営業を実践

市場のトレンドやお客様のご要望を取り入れて、毎年発売される新商品や人気シリーズのモデルチェンジについて、その長を販売店様に確実に伝えることは、営業担当者の重要な役割です。コミュニケーション営業を重ね、販売店様に合った重点商品の選択や売り場の展示構成、オリジナル商品のカスタマイズ項目などを決定していきます。

また、近年、学習家具のご購入時期が入学シーズンだけではない傾向にあり、1年を通じた効果的な売り場づくりについてのご提案が必要になります。商品についても、さまざまなご意見をいただく機会が増え、お客様満足のために、社内へのフィードバックを欠かさず取り組んでいます。

今後も販売店様への緊密なコミュニケーション営業を実践し、商品の長を引き出すとともに、販売店様にとって効果的な売り場づくりを提案していきます。

マナビンテリアハーツ

家具・インテリアのホームファニシングストアである同店は、創業以来一貫して変わらぬスタンスで、良い品をお安くお客様にお届けするための「良品廉価主義」を徹底。現在、西日本を中心に13店舗を展開しています。



1年を通じた「コドモ・デスク・コレクション」と「自立支援ベッド」の売り場コーナーを設置



お客様の声に耳を傾け、商品の改善と拡充を重ね、愛されるコイズミファニテックをめざして

もちろん学習家具については、お子様が勉強に集中できるよう機能性を追求し、商品を改善していく努力は怠りません。業界初の6本脚を採用した回転式学習チェア「ベストフィットチェア」は、コンパクトなサイズでありながら使用時の安定性を向上させた自信作です。簡単な操作で座面位置を変えられ、身体にぴったりとフィットして正しい姿勢を保持。足を載せるステップは成長に応じて取り外しも可能です。

こうした商品の改善や商品ラインナップの拡充をしていく際には、家具販売店様の店頭でのニーズや購入していただいたお客様の声などが、開発のヒントになっています。ベストフィットチェアで、足を載せるステップの面積を増やしたのも、販売店様と日々接する営業のアイデアから生まれたものです。また、購入していただいたお客様やショールームに来られたお客様には「消費者アンケート」をお願いし、その内容は3カ月に一度、全社的に開く品質保証会議で共有・検討し、商品の改善や新商品開発に活かしています。

今後も一人でも多くのお客様の声に耳を傾け、コイズミのファンとなっていただけるように、モノづくりのためのご意見収集に取り組んでいきます。



95cm幅のデスクにも納まるサイズです。5本脚よりも6本脚のほうが中心からの距離が長いので安定性が増します。

業界初の6本脚を採用したベストフィットチェア

脚の直径を大きくするのではなく、脚を6本にすることで安定性を高め、95cm幅のデスクにも納まるコンパクト性を実現しました。

KOIZUMI's Voice

2012年から、マナビンテリアハーツ様を担当させていただいています。関西でのローカルチェーン展開を拡大される中で、川西店でも北摂エリアの豊かな市場を背景に、関西人が最もよるこが「良い商品をお安く」を心からのおもてなしで提供されています。購買および売り場のご担当者様とは商品の選択から売り場づくりまで、コミュニケーションを密にすることを心掛け、コイズミの特長をよくご理解いただきながら、学習機のシェアNo.1を保っていただいています。今後は、年間を通じてご販売いただいている福祉家具や書斎家具でも、一層の貢献ができるようプロモーションを進めさせていただきます。

コイズミファニテック(株)
家具営業部 近畿営業グループ
近畿第2営業所

堤 重夫



Stakeholders' Voice

コイズミファニテックさんとの取引は1980年代から始まり、今でも良好な関係を保っています。コイズミさんの学習デスクは、他メーカーと比べても子どもさんの人気が高く、当店の売上もNo.1です。コイズミさんは国内トップシェアを誇るだけに、市場ニーズの捉え方が的確で商品化も早いと思います。当社も風通しのよい会社をめざし、「みんなでやろう!」という風土改革を行っていますが、コイズミさん同様、社内で若い人の意見をうまく吸い上げるシステムを確立していきたいと考えています。これからも驚きのある、見ていて楽しくなる商品の開発を期待しています。

株式会社マナビンテリアハーツ
川西店 店長

真鍋 光 様



コイズミファニテック(株)の取り組み ②

拡大するシニア市場 その期待に応える 商品開発と販売体制を強化

コイズミファニテック(株)では、拡大するシニア市場のニーズに応える商品開発や品質保証体制の強化を図るとともに、お取引先様とのパートナーシップを深めながら、販売活動の強化に取り組んでいます。

Partner
パートナー

シニア向け事業の再編を視野に 学習家具とシニア家具の開発部門を一本化

総務省が2013年9月に発表した統計によると、2013年、65歳以上の高齢者人口は3,186万人とついに4人に1人に達し、社会の高齢化が急速に進んでいます。コイズミファニテックでは、従来から、高齢者の豊かで快適な生活をサポートするWHM(ウェルホーム&メディカル)事業に注力してきましたが、シニア向け家具や介護用品の市場の拡大に伴って、市場の期待にさらに応える商品を開発していくことが不可欠であるという認識のもと、2013年度から事業組織の再編に取り組みました。

従来、学習家具とシニア向け家具は、商品の企画・開発をそれぞれ別の事業部で行っていましたが、2014年4月には、品質保証も含めて商品部という組織に一本化。40年以上にわたって蓄積してきた学習家具の開発や品質保証のノウハウに、OEM生産から自社ブランド製品の開発へと進展し、すでに10数年の実績を持つWHM事業のノウハウを融合することによって、コイズミブランドとして、より安全で使いやすい商品を開発していく体制を整えました。

独 自規格に基づいて安全性を確保するとともに、 多角的な視点で品質を保証する体制を拡充

シニア家具についても、2013年度から学習家具同様に、JIS規格に準拠したコイズミファニテック独自の製品規格「KIS (Koizumi Industrial Standard)」の運用を開始し、規格に基づいた製品の強度と耐久性および安全性の検証を行っています。規格については今後、継続的に見直し、JIS規格では要求されていない部分にも踏み込んだ規格を整えていきます。

さらに、商品部への統合に伴い、従来、学習家具と兼任だった品質管理担当者にシニア家具専任者を置き、専門性を拡充しました。これを機会に品質管理の専任担当者、ベッド開発の担当者、さらには学習家具の開発担当者など、社内の多くの部署のメンバーによる検討の場が定例化され、多角的な視点で、課題の共有や改善策の検討を行っています。

また、介護の知識や介護現場での家具や機器の使い方について、社員が理解を深めるため、現在社員90名のうち28名が取得している福祉用具専門相談員の資格について、今後は全社員の取得をめざしていく考えです。

KOIZUMI's Voice

試作品を検討するデザインレビューにおいても、複数の目で多角的に評価するようになったことで、課題がはつきりし、評価の精度が高まっています。品質管理を担う者として、今後も、安全で安心度の高い商品の提供をめざすのはもちろんですが、取扱説明書のわかりやすさやなど、広い視野でお客様の立場に立った商品開発に寄与し、介護市場でもコイズミファニテックのブランド認知度を高めていきたいですね。



コイズミファニテック(株)
(左)品質保証課 課長 (右)品質保証課
福祉用具専門相談員 品質管理室 室長
横井 誠 上本 正人



KOIZUMI's Voice

コイズミのDNAとして、複合して新しいモノを作るのが得意ということがあります。古くはクックテーブルや家具調コタツなど、複合した機能や要素を組み合わせて独自の製品を生んできました。最近では学習机に独自の機能を持ったLEDツインライトを組み合わせて、他社との差別化を図ることに成功しています。介護ベッドについても、そのDNAを受け継いだ商品開発を進めています。これまで以上に、実際のユーザー様や介護に携わる方、また販売やレンタルをお願いしている取引先様の声を伺いながら、複合的な要素を組み合わせて付加価値を生み、「これ使いやすいね」と言っていたいただける商品を開発していきたいと思っています。



コイズミファニテック(株)
商品部 開発課
福祉用具専門相談員
篠原 千春

取引先様からのアドバイスをもとに レンタル対応可能な初の自立支援ベッドを開発

主力の自立支援ベッドについては約7年前から自社ブランド品を製造・販売し、ベッドからの移動を快適にするフルフラット機能(特許申請中)や、場所をとらず省スペースにできる垂直昇降機構など、利用される方や介助者の方の使いやすさの視点に立った独自の機能を盛り込んだ製品を提供してきました。

こうした介護ベッドは、従来、販売用として開発してきましたが、介護保険が使えるレンタル対応ベッドへのニーズへの高まりを受け、現在、コイズミファニテックとしては初のレンタル対応ベッドを開発中です。製品開発に際しては、従来からベッドの販売や介護機器・福祉用具のレンタルなどを通じてお取引のある卸売業者様やレンタル業者様に課題やニーズを聞かせていただきました。その結果、「作業の簡便さ」が最も重視されていることがわかり、すべて一人で分解ができ、モーター部もマット部も洗える仕様を開発しました。また、ベッドを支える台にある昇降ユニットについては、お客様がモーターを取り付ける工程を省き、配線するだけで組み立てられる方式を開発。さらに、組み立てに必要な部品数を減らし、組立時間の短縮化を図るなど、製品の改善・改良を続けています。

家具、介護に加え、新たに文具ルートも開拓し 各ルートでお取引先様との協業による営業活動を強化

これまで当社の商品は、家具販売店様を中心とした家具ルートと、介護用品の卸売業者様などを中心とした介護ルートの2つのルートで販売してきました。同じ電動ベッドでも、まだまだお元気でインテリア性も重視されるお客様と、在宅で介護が必要な方や介護福祉施設様では求められる機能が異なるため、それぞれのルートで供給している商品は異なります。

さらに、新たなお取引先様との協業による新規ルートの開拓にも力を入れています。全国の医療・福祉施設などに文具や事務機器の販売をしている大手文具メーカー、(株)ライオン事務器様との協業もそのひとつです。同社の営業担当者様が施設などに提案に行かれる際に、コイズミファニテックの介護用品カタログをお持ちいただくなどご協力いただき、2013年度は沖縄や九州の施設に介護ベッドをご購入いただきました。同社では本格的な介護市場への参入をめざして介護用品カタログの制作が進められており、コイズミファニテックが開発中の新しい自立支援ベッドも掲載される予定です。

今後も、従来からのお取引様、そして新たなお取引先様とのパートナーシップを深め、それぞれの市場にマッチした商品開発と販売活動の拡充に取り組んでいきます。



株式会社 初音 特定施設入居者生活介護 介護付有料老人ホーム「ウエルシア」様(福岡県・飯塚市)

在宅ケアベッドの「コイズミおもしろ機能」

壁際までベッドの設置を可能にしました
省スペース、垂直昇降機能



25~60cmまで昇降し、場所をとることなく、介助者様の負担軽減にも役立ちます。昇降の上下の動きが垂直に動くので、壁際にぴったり設置でき、ムダなスペースをとりません。

足のむくみ予防に最適です
フットアジャスト機能



水平脚上げ、山型脚上げに簡単に切り替えることができます。脚を上げた時の足先の角度を、水平と斜めの切り替えをお選びでき、水平時は足先が楽に「むくみ」を軽減させます。

ベッドからの移動を快適にしました
らくアップモーション® フットフラット機能



快適な背上げ、脚上げのリクライニングが可能です

■ 快適な背上げ・脚上げのリクライニング



2モーターで、背部が上がってきた状態の時に、脚部がフラット状態になるので、ベッドからの移動がより快適になりました。(特許出願中)



安心 安心の「3年間保証」

日本福祉用具・生活支援用具協会 (JASPA) 会員

●(社)日本家具産業振興会
SAFU制度は、家具の欠陥により事故が発生し、法律上の賠償責任が生じた場合に賠償するというものであり、本制度に加入している企業は「SAFUマーク」(SAFU=Safety Furnitureの略)を表紙しています。

KOIZUMI's Voice

世の中の高齢化が本格的に進む中、シニア向け家具のニーズの高まりに合わせて、販売チャネルの多様化も進んでいます。老人福祉施設や高齢者向けマンションなど、それぞれで求められる条件は異なりますが、「福祉家具のコイズミ」としての認知を高めるためには、まず販売会社様に認めていただくことが何より重要だと考えています。高機能・高品質な製品を高いコストパフォーマンスで提供するのはもちろんのこと、オーナー様のご要望があれば、これまでのノウハウを活かした特注品のコントラクト対応でご満足いただくなど、これからも柔軟な営業でお応えしていきたいと考えています。

コイズミファニテック(株)
福祉家具営業部 課長
別所 宗城



Stakeholders' Voice

当社では、以前から特販営業部が介護福祉市場対応の専門部隊として営業活動を行っていましたが、近年の「サ高住(サービス付き高齢者住宅)」を中心とした施設の増加、また将来の市場拡大を見据え、地域密着型の営業を展開している文具事務器販売業者様、IT販売業者様とのコラボレーションによる介護福祉市場の開拓を本格的に開始しました。コイズミファニテック様は競争が激化している本市場で、品質と価格のバランスのとれた商品をお持ちなので、当社にとって大切なパートナーとなりました。今後とも、介護系家具に当社のスチール家具を組み合わせた提案営業の推進に、ご支援いただきたいと思います。

株式会社ライオン事務器
販売店事業部 執行役員
鎌田 龍雄 様



(株)ハローリビングの取り組み
住宅分野で培った
ノウハウと
グループシナジーを活かし
新たな市場・お客様を開拓



(株)ハローリビングは、快適な暮らしに欠かせない住宅設備の提案・販売・施工事業を全国で展開しています。住宅分野で培った照明・空調設備の省エネのノウハウとグループ企業との連携を活かし、オフィスや店舗、施設、工場など新たな市場へも積極的に参入しています。

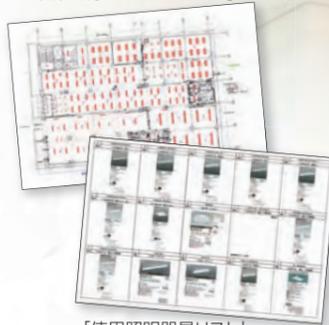
グ ループ企業との連携によって成功させた
大規模な倉庫やオフィスビルの照明LED化

ハローリビングでは、インテリア関連商品から照明器具、空調、壁・床材など、快適な暮らしをサポートするさまざまな商品を扱うだけでなく、マンション会社様や住宅メーカー様を通じて、省エネ性の高いLED照明の提案・施工でも実績を積み上げてきました。その実績とノウハウを活かし、近年は、グループ会社のコイズミ照明(株)と協働し、店舗、オフィス、工場などの案件に対するLED照明への入れ替えによる省エネ提案にも積極的に取り組んでいます。

さらにグループ会社との情報共有やクロス営業を進めてきた結果、2013年度は京都府宇治市の大型ショッピングセンターのLED化工事など、多くの大規模入れ替え案件を手掛けることができました。その中で、小泉産業(株)グループと創業のルーツを同じくするファッションメーカーの小泉アパレル(株)様が入居する小泉(株)グループ様本社ビルの全面LED化工事も当社にお任せいただきました。入れ替えにあたっては、コイズミ照明の商環境開発部門がリノベーションプランを提案し、当社が元請となって納材から取り付け施工を行い、2月に工事を完了しました。今回のLED化リニューアルが省エネ・節電につながっただけでなく、「前よりオフィスが明るくなった」と好評の声をいただき、職場環境の改善にも役立つことができました。

2013年3月には自社ホームページを開設し、こうした新たな事業や年々増加している取扱商品のラインナップをメーカー各社様の協力を得て、わかりやすくお伝えしています。

小泉アパレル様・1階「照明レイアウトプラン」



「使用照明器具リスト」



年間電気代比較、トータルコスト比較およびCO₂排出量換算を提示した「経済比較表」



住 住宅・店舗・施設市場における
機器・インテリア・ソフトの総合提案企業へ

ハローリビングでは、コイズミファニテック(株)がシニア世代向けに開発・製造・販売している電動ベッドなどの生活サポート家具も取り扱っています。LED照明や家具など、グループ会社の製品を扱える強みも活かし、さらにグループ連携を深めながら、「住宅・店舗・施設市場における機器・インテリア・ソフトの総合提案企業」をめざしていきたくと考えています。



ハローリビングWEBサイト
<http://www.helloliving.co.jp/>

KOIZUMI's Voice

小泉(株)グループ様本社ビルの改修工事では、LED照明への入れ替え工事を当社にお任せいただきました。築50年を経過した建物の天井への埋め込み器具の取り付けなどに多少難しい点がありましたが、工事中、社内の調整をいただいたご担当者のおかげで、無事予定期間でお引渡しのすることができました。社員の皆様に喜んでいただけていることを大変うれしく思っています。



(株)ハローリビング
西日本営業部 部長
塩谷 裕之

KOIZUMI's Voice

小泉(株)グループ様本社ビルは、これまで幾度も改修されてきた建物のため、竣工時と比べ部屋のレイアウトや照明配灯などが大きく変わっていました。現状調査の上、LED器具の選定、取り付け方法の検討などを行い、今回の省エネ投資の回収期間に6年が見込まれることを経済比較表でご理解いただきました。実際のご使用環境で予想通りの省エネ効果と快適環境をご提供でき光栄です。



コイズミ照明(株)
うめきたオフィス
西日本商環境開発部
平田 知行

Stakeholders' Voice

照明器具をLEDに入れ替えた後は、照明の使用電力量が昨年の約半分に減りました。今後も省エネと経費削減効果が現れると期待しています。改修前と比べ全体的に照度が増し、職場の作業環境も改善できました。アパレル企業の展示場に適した器具の選択や工事日程など細かい要望にも応えていただきました。今回の実績を踏まえ、他の事業所でも最適な提案をいただければと思います。



小泉アパレル株式会社
管理部 総務人事課 課長
山田 久昭 様

Stakeholders' Voice

ハローリビング様とは戸建住宅の照明取り付け工事から携わらせていただき、どの現場でも常にエンドユーザー様の納得・安心を第一にした施工を心掛けています。今回の小泉アパレル様の施工は休日に行われ、翌日は通常営業されるため、清掃には特に注意を払いました。施工に責任を持つのはもちろん施工前後のサービス充実を図り、今後もお役に立っていきたくと思っています。



株式会社モモヤシステム
代表取締役
百々 彰彦 様

コイズミ物流(株)の取り組み

環境調和型ロジスティクスの展開をめざし、効率的な物流システムの構築とCO₂削減への取り組みを継続的に推進

Ecology
環境

小泉産業(株)グループの物流機能を担う一方、全国に配した物流拠点を活かし、外部の幅広いお客様に最適な物流ソリューションを提供しているコイズミ物流(株)。外部のお客様比率が高まり荷扱い量が増す中、CO₂の継続的な排出削減と効率的な物流システムの構築によって、社会とお客様への貢献をめざしています。



関西新拠点イメージ

配 送効率化、コスト削減と同時にCO₂削減に貢献する共同配送便を強化

近年、物流業界では若手ドライバーの不足と高齢ドライバーの定年による人材不足が課題になっており、従来以上に効率的な配送を行いながら、物流品質を高めていくことが求められています。そこで、コイズミ物流では、複数荷主様の商品をまとめる「共同配送」による車両集約に力を入れ、配送の効率化とコスト削減と同時に、CO₂排出削減を図っています。例えば、電設工具や電気材料などの総合メーカーであるジェフコム(株)様と、当社グループのコイズミ照明(株)は、お互いの納入先が共通していることが多いため、近畿から関東、中部、中国エリアなどへの配送を共同で実施しています。

また、2012年度からは、大都市圏を中心に全国で主に自転車による配送でCO₂削減に貢献している(株)エコ配様を利用し、照明器具単品など少量商品の配送を行っています。「エコ配」の仕組みを利用することで、トラック車両で配送した場合のガソリン起源のCO₂排出量に比べ、どれだけCO₂を削減できたかを毎月いただくレポートで確認しています。利用開始以来、2014年3月までのCO₂削減量は、7,200kg-CO₂に上っています。配送できる商品の形状や大きさに制限はありますが、今後できるだけ利用を拡大し、配送時のCO₂削減に努めていきたいと考えています。



エコ配

自転車などの活用とカーボンオフセットにより、CO₂排出量をゼロにしています。また、荷物1個あたり約321gのCO₂を削減したのと同じ効果があります。

KOIZUMI's Voice

物流業務では、輸送機関の排気ガスや騒音などが環境問題の原因になります。「共同配送」化の促進は、荷主様へのサービスの向上と物流コスト低減だけでなく、環境汚染の防止にも役立っています。そのために安定した物量を確保する取り組みを日々行っています。また、荷主様と双方で紙資源の使用を減らす業務データ化の促進や、アイドリングストップの徹底、低公害車の導入などを進め、環境調和型ロジスティクスをめざしています。



コイズミ物流(株)
営業本部 東大阪営業所
所長

三宅 文男

Stakeholders' Voice

電設工具・部材メーカーである当社は、ねじ1パックから出荷する物流形態のため、サイズ、梱包の仕様がさまざまです。コイズミ物流さんとの取引開始当初は、扱いに関する不安もありましたが、まったく問題のない対応で安心してお任せしています。今では、当社の出荷プロセスのシステム見直しにも協力いただき、サービス向上を図ることができました。今後もこれまで同様のサービスでご協力いただきたいと思います。



ジェフコム株式会社
常務執行役員 業務本部長
土井 秀之 様

協 力会社様とともに環境負荷の少ない物流をめざして

コイズミ物流は、ISO14001の認証を取得し、事業活動における環境マネジメントに取り組んでいます。配送時におけるCO₂削減や省資源だけでなく、各倉庫やターミナル、事務所では、使用電力の削減に徹底した管理で取り組んでいます。

また、コイズミ物流は運送実務を委託している協力会社様とともに、CO₂削減や省資源活動に取り組む「環境調和型ロジスティクス」の展開をめざしています。年に1回、全国の協力会社様にお集まりいただく品質会議などを通じて、コイズミ物流の環境方針などをご説明するほか、「グリーン経営認証」の取得支援をしています。「グリーン経営認証」とは、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団がグリーン経営推進マニュアルに基づいて一定のレベル以上の取り組みを行っている運輸事業者に与える環境認証制度です。

協力会社様には、年1回、認証継続の意思を確認させていただき、グループ会社のコイズミ情報システム(株)(2014年4月に小泉産業(株)に統合)が運用をサポートする「グリーン経営ASPサービス」などを活用し、認証継続を支援させていただいています。現在、全国で15社の協力会社様が取得されています。



認証取得事業者の平均燃費は、認証取得後の2年間で、車両総重量8トン以上のトラックの場合、認証取得時と比較して約4.0%改善しました。

関 東と関西の物流拠点を再構築

現在、力を入れているのは、お客様の物流業務をトータルに受託運営する「サード・パーティー・ロジスティクス(3PL)」の展開です。今後の荷扱い量の増加に対応していくために、関東・関西で物流拠点の再構築に取り組んでいます。

関東においては、2014年の夏にグループ外の家具メーカー様の商品も扱う家具専門の新拠点を神奈川に開設。関西では、2015年の春をめどに東大阪の拠点を大阪市住之江区に移転し、規模を約1.5倍に拡大する予定です。こうした物流拠点の再構築においても、省電力とCO₂削減を促進していく運営体制をめざしていきます。

KOIZUMI's Voice

当社は、環境問題に正面から取り組む物流企業として、協力会社様との情報共有が大切であると考えています。物流を通じて、お客様に環境メリットを感じていただくためには、同じ認識に立った取り組みができていないと実現しないからです。全国の協力会社様にお集まりいただく品質会議では、全国の事業所での成功・失敗事例の報告や課題の共有を図り、物流業界全体で取り組む環境負荷低減についてもコミュニケーションを実施しています。今後も「三方よし」の精神で、信頼が得られる環境活動を行ってまいります。



コイズミ物流(株)
営業本部 東大阪営業所
阿部 貴志

Stakeholders' Voice

当社は、奈良県エリアの量販店様の商品センター納品、滋賀県の照明販売店ルート配送など、近畿圏での共同配送業務を任せさせていただいています。物流品質を保つための取り組みとして、当社では積み込み・積み替え・納品時それぞれでカートン不良が出ないように、作業品質の向上を行っています。特にお客様への納品時間を守ることは、サービスレベルを維持する上で重要と捉え、実践的に配慮しています。コイズミ物流さんとは、協働パートナーとして年間を通じて安定した配送業務で協力していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



立石運送株式会社
代表取締役
立石 浩文 様

小泉産業(株)の取り組み ①

3回目を迎えた 学習デスク寄贈活動 九州・沖縄8県の児童養護施設に 50台を寄贈

小泉産業(株)グループの事業特性を活かした社会貢献活動として始めた児童養護施設への学習デスク寄贈活動が、2013年度で3年目を迎えました。今後も、施設で暮らす子どもたちに希望の風をおくる活動として、継続させていきます。



グループ各社の営業社員が デスクの組み立てを子どもたちとともに

この活動は、東日本大震災の復興支援のひとつとして、東北3県(岩手、宮城、福島)の児童養護施設に、コイズミファニテック(株)の学習デスクを寄贈したことから始まりました。これをきっかけに、全国597カ所の施設で約3万人の子どもが家庭の事情で親と離れて暮らしていることを知り、この活動をそういった子どもたちの夢と将来を育むために続けていくことが会社決定されました。

2回目は小泉産業(株)の本社所在地である大阪府を対象に実施。3回目となる2013年度は、九州・沖縄8県

27カ所の施設に計50台のデスクと椅子のセットを寄贈しました。

今回の活動には、小泉産業のCSR推進部門の社員の他に九州エリアのコイズミファニテック(株)とコイズミ照明(株)の営業社員も参加。デスクを送るだけでなく、各地の施設に社員が出向き、子どもたちと一緒にデスクの組み立てを行いました。寄贈先の施設からは、「一緒に組み立てることで、子どもたちが協同作業の意味を学ぶ良い機会になった」という声をいただきました。また、参加した社員からも、「いきいきとした子どもたちの姿を見て元気ももらった」という感想が寄せられました。

子どもたちからの感謝状に感動! 今後も全社的な活動として継続

寄贈は子どもたちの春休みにあたる3月から4月にかけて行いました。3月26日には福岡県北九州市の双葉学園で、北九州市社会福祉協議会様の主催による寄贈式が行われました。

式には、同協議会様や施設の職員の方々、子どもたちのほか、コイズミファニテックの社長永安勝壽と、小泉産業のCSR推進担当者が参加。同協議会様から、当社グループの取り組みに対し、感謝状をいただきました。

また、サプライズで、同学園で暮らしている小学6年生の男子児童から感謝のメッセージが読み上げられました。「机をもらってありがとうございました。僕はこの机で一生懸命勉強して将来、お医者さんになります」という言葉に、式に参加した社長、社員ともに改めて本活動の意義をかみしめました。さらに、後日、同学園をはじめ、各地の施設の子どもたちから、小泉産業にイラスト入りのお礼状が届きました。

当社グループは、「子どもたちの夢と成長を育む」ことを目的とした本活動を、今後も全社的な社会活動として継続していきます。

KOIZUMI's Voice

今回の訪問で、厳しい境遇で暮らす子どもたちが想像以上に多いことを認識しました。新品の学習机で勉強し、立派に成長してもらえることを祈るばかりです。日頃の照明の営業とはまったく違う活動ですが、微力ながらお手伝いすることができました。グループとして推進するこの活動が着実に広がっていくことを期待しています。



コイズミ照明(株)
長崎営業所 所長

出口 尚之

大分の清浄園様に伺いました。「これはここかな。これは?」と、説明書を見ながら子どもたちと一緒にデスクを組み立てました。みんな素直な良い子ばかりで、一生懸命頑張る姿に目頭が熱くなりました……行ってよかったと思います。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



コイズミ照明(株)
北九州営業所 所長

西尾 泰典

学習机が、お子様の成長に欠かせない物のひとつであることを改めて感じる事ができました。もっと頑張って働いて、もっと利益を生み出し、もっと多くの学習机を全国に届け続けることができるよう、これからも頑張っていきます。今回の活動に参加できたことを大変うれしく思います。このような活動を行う会社で働いていることも誇らしく思えました。



コイズミファニテック(株)
九州営業所 所長

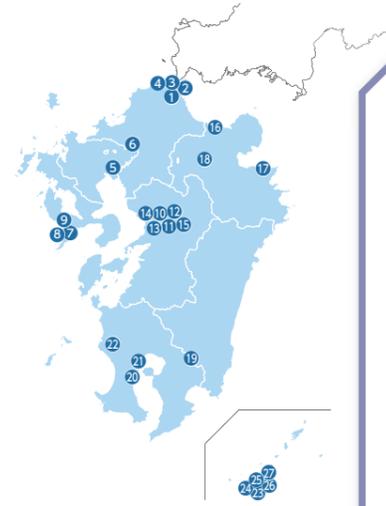
濱田 佳男

【福岡県】

- ① 双葉学園
- ② 門司ヶ関学園
- ③ 天使育児園
- ④ 若松児童ホーム
- 【佐賀県】
- ⑤ 佐賀清光園
- ⑥ 洗心寮
- 【長崎県】
- ⑦ マリア園
- ⑧ 明星園
- ⑨ 浦上養育院

【熊本県】

- ⑩ 慈愛園子供ホーム
- ⑪ 菊水学園
- ⑫ 熊本天使園
- ⑬ 藤崎台童園
- ⑭ 龍山学苑
- ⑮ 広安愛児園
- 【大分県】
- ⑯ 清浄園
- ⑰ 小百合ホーム
- ⑱ 藤葉学園



【宮崎県】

- ⑲ 石井記念有隣園
- 【鹿児島県】
- ⑳ 愛の聖母園
- ㉑ 三州原学園
- ㉒ 大村報徳学園
- 【沖縄県】
- ㉓ 愛隣園
- ㉔ 青雲寮
- ㉕ 美さと児童園
- ㉖ 島添の丘
- ㉗ なごみ

Stakeholders' Voice

「このネジどこに使うの?」「ドライバーはどっちに廻すの?」「やったぞ!! できたよ!!」。貴社の「養護施設への学習デスク寄贈活動」により、九州ブロックに50台の学習デスクセットが寄贈されました。寄贈いただいた各々の施設に派遣された社員の方々が、子どもと一緒にデスクを組み立てる作業の一コマです。単なる物品の寄贈で終わるのではなく、社員の方々との組み立て協同作業の中に贈る側の気持ちを伝える、実にすばらしい活動であると感じました。また来年も、どこかの施設で子どもたちの感動が見られることを願い、この事業がいつまでも継続されることを祈念いたします。



九社連児童養護施設協議会
会長

出納 皓雄 様



子どもたちからの
お礼状

このたびは、学習デスクを寄贈いただきありがとうございました。通常の寄贈では、でき上がった商品を受け取りますが、今回は各部品を組み合わせて最初から作り上げる工程がすごくよかったです。初めてドライバーを持ち「左右どちらに回すのですか」という質問から始まり、各パーツを社員さんと一緒に組み上げていく子どもたちの姿は、とても生き生きとしていました。子どもたちは、自分たちが作ったデスクだと丁寧に使用し、物を大事に使うという心が根付いたようにも思えます。大変な風雨の中をご来園いただき、職員一同心から感謝申し上げます。



社会福祉法人 双葉会
主任指導員

井手 博司 様

小泉産業(株)の取り組み②

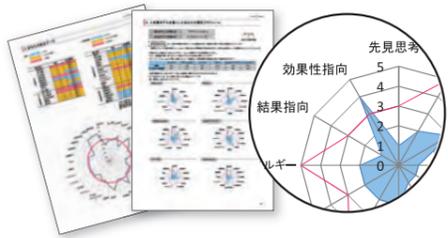
一人ひとりの気づきと成長を促すことでプロフェッショナルをめざせる環境づくりに注力

小泉産業(株)グループがめざしているのは、社員一人ひとりがプロフェッショナルな人材をめざして成長し、働きがいを持てる会社づくり。キャリア支援やメンタルヘルスケアなどの仕組みを充実させ、各自の気づきと成長を促すことで、自らの夢や目標に向かってより高度なプロフェッショナルをめざしていける環境づくりに力を入れています。

People
人



コイズミアカデミーのイントラサイト



※個人アセスメント
現在、発揮されているコンピテンシー
(個人属性)の状態を可視化する診断ツール

プロフェッショナルな人材として自己の可能性を探求する「キャリアデザイン」を充実

KOIZUMI ACADEMY

「人格の育成向上」を社是に掲げる小泉産業(株)グループは、「自らのあり方」を考え、学び、探求する「道学」と、実務で活用する「実学」を組み合わせた研修をコース別、階層別に体系化した「コイズミアカデミー」という学びの道場で、切磋琢磨する教育環境の整備に力を入れてきました。

中でも2012年から充実を図っているのが「キャリアデザイン」の研修です。個人アセスメント※を活用して自らの強みと弱みを可視化しながら、強みの拡充と弱みの補完を実現するために、自己開発のキャリアプランを明確にする「キャリア-35」(35歳を対象)、65歳雇用延長の時代へポジティブに対応していくための企業貢献再設計と情熱再策定を目的とした「キャリア-50」(49歳を対象)の2コース(各コース2日間)を開講しました。

両コースとも共通するのは、2日間にわたって、自らの内側をしっかり探求し、参加メンバーと語り合いながら、仕事そのものや必要な知識、スキルの本当の意味を自らに引き寄せることで、そのプロセスを習得し、研修後も継続していけるきっかけづくりを目的としている点です。

コイズミが考えるプロフェッショナルな“人材”になるには、専門的な知識やスキルだけでなく、自らの内側に存在する目的と達成するための動機を、社員一人ひとりがどれだけ明確にできるかが重要なキーであると考え、こうしたキャリアデザイン研修を実施しています。

コイズミアカデミー人材育成体系



グループ全体としての教育以外に、各社で実施する専門教育があります。

キャリア-35研修

インターンシップの内容を充実させて継続しています

小泉産業(株)では、2012年度から、大学3年生を対象にしたインターンシップを開催しています。延べ8日間にわたって、グループ内の3つの事業会社を回り、社員とともに仕事の一端を体験するだけでなく、働くことについて考え、実習後の具体的な行動変容につながるようなプログラムを実施しており、2013年度も5大学から6名の学生が参加しました。取り組みは実習生だけでなく、学生を派遣する大学からも好評で、3つの大学からはインターンシップ実施後に講演の依頼をいただきました。

また、2013年11月には、初めて東京でワンデーインターンシップも開催し、20名の学生が参加しました。営業担当者が実際の手帳や資料を見せながら、顧客や取引先とどう関わって仕事をしているかなど、普段なかなか触れることのないリアルな話を聞けるような内容を工夫し、参加者へのアンケートでも満足度がとても高い結果となりました。



ワンデー
インターン
シップを開催



大学インターン報告会に参加

さらにきめ細かいメンタルヘルスケアをめざし「コイズミあったかサポート」を開発

働きがいのある会社であるためには、社員が心身ともに健康であることも欠かせません。特に社会問題化し、法整備も進むメンタルヘルスについては、年1回定期的に実施する「ストレスチェック」の結果をもとに、必要な組織にフォローを行う「ラインケア」と、高ストレスがあると診断された個人に対しフォローを行う「パーソナルケア」という2つのアプローチによる取り組みを実施しています。

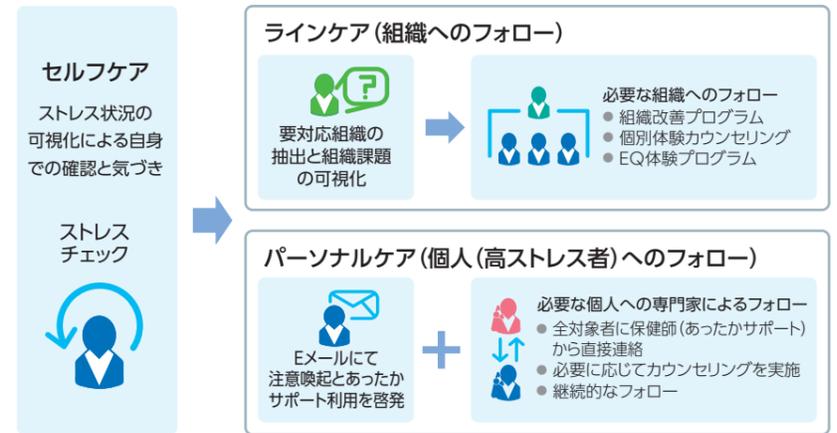
2013年4月からは、このパーソナルケアをさらに充実させ、メンタルケア・カウンセリングの経験が豊富な外部の保健師の方と連携し、年間を通じて、ストレスを抱える一人ひとりに寄り添いながら継続的に支援し、場合によっては出張カウンセリングや医師との連携もできる相談窓口「コイズミあったかサポート」を開発しました。「温かい」と「あ、これがあったか」という言葉からのネーミングで、実際の利用者からは「本当に温かい対応をしてもらえました!」と好評です。

2014年度からストレスチェックについては、従来のストレス状態に加え、仕事への熱意度と合わせて確認できるようバージョンアップする計画です。一人ひとりが「いきいき」と働きがいをもてる環境づくりの取り組みのひとつとして、今後もメンタルヘルス対応をさらに充実させていきます。



「コイズミあったかサポート」
携帯カード
2013年4月、小泉産業(株)グループ
の全社員に携帯用カードとして配布。

ストレスチェック〜2つのケア体制



Stakeholders' Voice

企業が行う「パーソナルケア」で最も大切なことは、プライバシーがきちんと守られて、安心して相談できる場があること、また、相談することで不利益を被ることがないようにすることです。

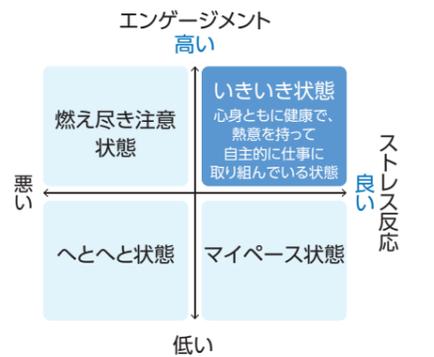


M'S EAP代表
あったかサポート 保健師
石田 みき 様

小泉産業さんは、「できるだけ早く発見して支援できる仕組みづくりと、相談しやすい環境づくり」に真剣に取り組んでいると思います。ストレスの要因が社内の問題であれば、迅速に対応していかうとする姿勢があり、これまでも相談者から了解を得られたケースでは、各社の窓口担当者さんと連携して職場環境の調整にもご協力いただいています。これからも、相談者が求めていること(傾聴・具体的対処・情報提供など)に、心を込めて対応していきたいと考えています。

ストレスとエンゲージメント(熱意)との関係

※2014年度からバージョンアップ



KOIZUMI's Voice

「キャリア-35」の2日間では、生い立ちを含めた自己開示をする機会が多く、参加した他のメンバーとの互いに腹を割ったディスカッションを通じて、エリアを越えた「仲間」が増えたと、参加後に実感しています。また、診断による客観的な分析結果から、課題だけではなく自身の強みについても、なかなか把握できていないことに気づかされました。このように自身を「棚卸」することは、今後どう働いていきたいのかを、改めて見つめ直す重要な機会となりました。これを機に、日々の課題つづしに終始することなく、来場されるお客様はもちろん、ショールーム運営に関するさまざまな関係者へ視野を広げ、自ら周囲を巻き込みながら、積極的に、多面的な視点を持って取り組むように心掛けています。



コイズミ照明(株)
東京支社 SR東京
岩淵 純子

全国の事業所で節電を推進し電力需給問題に対応

当社グループは、東日本震災以降、年間を通じた電力需給の安定化に協力するため、全国の事業所で節電を実施しています。夏季のクールビズ期間の拡大(5月7日~10月31日)、照明や空調設備の省エネ運用管理、各社の適切な投資による事務機器の省エネ型への更新などを実施することによって、さらなる節電の推進に取り組んでいます。

2013年度は計測対象の53事業所中35カ所で2012年度の電力使用量を下回り、5カ所で前年度同等に維持できました。消費税増税前の対応で業務量が増えたことなどにより13カ所で増加しましたが、全国合計では前年度比約8.5%(38万kWh)の削減ができ、最大電力のピークカットにも貢献できました。

2014年度は再生可能エネルギーの導入による創エネの計画が進行中です。



不在、不要箇所の消灯励行



事務所、共用部のLED化完了(本社)



新入社員研修でのAED講習会

NPOのAED講習会を継続的に支援するとともに従業員の救命員化を拡大

当社グループは、全国のコイズミ照明(株)のショールームや来客者が多い事業所など6カ所に、AED(突然心停止した人を電気ショックで蘇生させる装置)を設置しています。

2009年度からNPO法人大阪ライフサポート協会が一般市民を対象に、AEDを使った心肺蘇生法の普及を図る講習会の会場として、小泉産業本社の大会議室を提供しています。2013年度は4回の講習会が開催され25名のご参加をいただきました。また、当社グループの新入社員研修にAED講習会を組み込み、いざという時に躊躇せずに行動できる従業員の拡大化を図っています。これまでに受講を終えた従業員は328名になりました。

全国の事業所で地域清掃活動を実施

当社グループでは、従来から各地の事業所において、周辺の清掃活動を実施してきましたが、2010年度からはグループの統一活動として全国レベルで推進、実施しています。2013年度も札幌から沖縄までのすべての事業所55カ所で清掃活動を実施し、地域美化に貢献することができました。各事業所の活動状況は、社内のイントラネットを通じて全社に発信し、グループ内で共有しています。

こうした活動は、事業所近隣の皆様とのコミュニケーションにも役立っています。

年間を通じて定期的に活動している事業所もあり、それぞれの自主的な取り組みとして活動が定着し、継続されるように推進を図っていきます。



鹿児島営業所火山灰清掃



新潟営業所



本社



札幌営業所
雪まつり清掃

青垣コイズミ照明



10年目を迎える「生駒の森運営協議会」活動

大阪府民のみどりの象徴である生駒山系を命を育む豊かな森にするため、大阪府、東大阪市、大阪産業大学と地元有志企業が協力して取り組む「生駒の森運営協議会」活動に参加して10年目を迎えました。

2005年の発足以来、社員がボランティア参加し、環境保全の大切さを体験を通じて学んでいます。

2013年度のヒノキ人工林での活動では健全な森について学習した後、参加企業の(株)都市樹木再生センター様の指導で実際に測定調査と手挽き鋸による間伐作業を行いました。これからも自然と親しみながら環境に役立つ活動として協力を続けていきます。



作業前の学習



伐採木を選ぶための測定調査



間伐作業

「企業のコンプライアンス」をテーマに大学への出前講座で学生の社会教育を支援

小泉産業(株)では法務担当の社員が大学からの要請を受けて「企業のコンプライアンス(法令遵守)と社会的責任」を題材にした学生向け出前講座を実施しています。この取り組みは、インターンシップや就職活動を控えた大学生の皆様へ、コンプライアンスの重要性を伝えることがひとつの社会貢献であるとの考えのもと、2008年度から継続しています。

2013年度も大学コンソーシアム大阪や摂南大学、大阪観光学堂などで5回の講座を受け持ち、325名に受講していただきました。これから社会に出ていこうとする皆様へ、学生と社会人の立場の違いや企業と社会の関わりなど、企業の社会的責任とその土台になるコンプライアンスについて直感的に理解してもらえる工夫を加えて実施しています。



大学出前講座



森の町内会証書

コミュニケーション・レポートの発行で岩手の森の間伐に協力

本コミュニケーション・レポートは、2011年度より環境NPOオフィス町内会の間伐促進活動「森の町内会」に賛同し、「間伐に寄与する紙」を使用して発行しています。

間伐サポーター企業として、使用した紙の重量に応じた間伐促進費が岩手の森(岩泉町・葛巻町・宮古市・山田町)で行われている人工林の間伐促進に充てられています。2013年度までの3年間で5,102kgの用紙を使用し、微力ながら岩手の森0.3haの健全な森づくりに貢献できました。

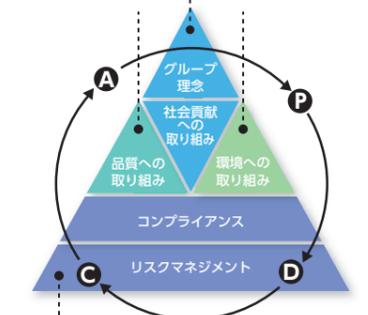
グループ全体で、時代の変化に対応し、社会的責任を果たしていきます

CSRマネジメントの構造

コーポレートブランドマネジメント
“グループ理念体系”に基づいて、コーポレートブランド価値の最大化を図り、社会に愛され信頼される企業をめざす

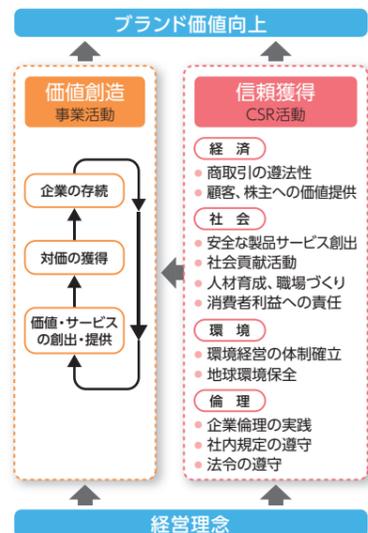
品質マネジメント
ISO9001を基本に製品品質はもちろんのこと経営品質の向上に取り組む

環境マネジメント
ISO14001を基本にサプライチェーンを含めた環境経営の推進に取り組む



コンプライアンス&リスクマネジメント
コンプライアンスとリスク管理という視点から管理項目を洗い出し、社内ルールを整備・維持・管理する

社会から信頼される企業になるために



CSRマネジメント

理念に基づく4つの要素を柱にグループ全体でCSRを推進

当社グループは、創業の源流にある近江商人の“三方よし”の考え方のもと、300年の歴史を通して、時代とともに変化する企業の社会的責任(CSR)を果たすべく努めてきました。

2006年度のグループ経営以降、グループ理念のもと、「コンプライアンス&リスクマネジメント」「品質マネジメント」「環境マネジメント」「コーポレートブランドマネジメント」を4つの柱に、グループ全体でCSRを推進しています。2010年度からは、小泉産業(株)のグループ経営統括部に事務局を置き、グループ各社の現場中心のCSR活動を支援しています。

第三次中期経営計画(2012-2014年度)では、ブランド戦略におけるグループシナジーの強化、幅広い社会貢献などをCSR課題に掲げて取り組んでいます。

環境マネジメント

ISOとグループ共通の環境管理規定に基づく、環境経営を推進

環境負荷低減による持続可能な社会形成に貢献するため、グループ主要拠点で「ISO14001」の認証を取得し、小泉産業の社長を環境最高責任者として環境管理活動のPDCAを回し、推進していく体制を構築しています。2013年度末時点で、グループ8社、9事業所がISO14001の認証を取得しています。

グループ各社では、内部環境監査や環境教育などを実施し、環境マネジメントを有効なかたちで経営に活かしています。また、2008年にはグループ共通の「環境管理規定」を制定し、ISO未認証の事業所を含め、省資源、廃棄物の適正排出・管理、省エネ、グリーン調達などに取り組んでいます。

2013年度は、各社で認証を取得している「ISO9001」による品質マネジメントとの同期を図り、環境と品質の統合内部監査を同時実施し、外部審査機関による認証審査も統合の形態で受審し、再認証継続しています。これからも経営に有効に働くISO運用を進めていきます。



ISO統合内部監査(本社)

コンプライアンス

グループ全従業員にWEBコンプライアンス研修を継続的に実施

グループ各社では、コンプライアンスを重視した経営の実践を重要課題に、従業員一人ひとりがコンプライアンス意識を持ち、行動に移していけるよう、コンプライアンス教育や啓発を継続して行っています。

これまでに「コンプライアンスハンドブック」や「コンプライアンスノート」を作成し、CSRや企業倫理、労働時間、ハラスメント、情報管理など、コンプライアンスの重要課題について従業員の意識啓発を図ってきたほか、毎年10月の「コイズミ倫理月間」には、グループ全従業員で「グループ倫理行動ガイドライン」を唱和し、企業倫理への意識を高めています。

2013年度は、全従業員を対象にイントラを利用したWEBコンプライアンス研修を継続して実施。コンプライアンスの基礎分野と各課題分野の項目を自己チェックする方法で計4回実施し、基礎分野については各社とも、ほぼ100%の正答率でした。一方で、労働や情報分野における理解不足の状況が把握でき、次年度の教育に反映させていきたいと考えています。

リスクマネジメント

リスクマネジメントの規定により、さまざまな取り組みを実施

当社グループでは、グループ各社のリスク項目を抽出し、継続したリスク対策の立案・実施を行っています。

2012年度には、従来、複数あったリスクマネジメントに関する規定を1本にまとめ、リスク予防から緊急事態対応までを網羅する規定を制定。地震・災害時の事業継続計画(BCP)を策定すべき重要業務の洗い出しから、その業務の復旧計画までを立案する手法についても規定しました。

2013年度は、BCP対策のひとつとして、災害等の緊急時に社員の安否情報が把握できる「スマートdeタイム-for安否」という危機管理ツールを、全従業員に支給している携帯電話に登録。実際に災害が起きたことを想定した報告・連絡の模擬訓練を毎月実施しました。また、小泉産業(株)では従業員各個人への緊急防災用品の配布、レスキュー工具の設置、水・食糧・毛布など、本社機能復旧のための最低限の備蓄を行いました。



防災訓練(本社)



防災用品

KOIZUMI's Voice

CSRマネジメントで大切な点は、その取り組みが従業員一人ひとりにとって「自分のもの」として自覚できているかということだと思います。各人が置かれた組織環境や立場、役割から自分にとってのCSRへの関わりはどうかを見出し、行動につながったときに企業として本来の社会的責任が果たせるものと考えます。例えば事業継続マネジメントにおける災害対策への取り組みでは、安全の確保や安否状況の確認はその第一歩ですが、計画手順があっても演習訓練ではなかなか全員が計画手順どおりに実践できないのが実態です。当社グループとして今はまだ形を整え、各人への啓発を繰り返すことで組織のものにしていく、という地道な取り組みの段階にあると考えています。



小泉産業(株) 総務室 室長 杉原 隆文



スマートdeタイム-for安否

快適な空間づくりのパイオニアとして

グループ経営理念にある「新しい着眼と独自の発想」から生み出された数多くのKOIZUMIブランドの製品は、常に市場に新鮮な驚きと好感をもって受け入れられてきました。これからも快適な空間づくりのパイオニアとして、人と社会に夢と感動を提供し続けていきます。

KOIZUMI HISTORY

1716 創業 始祖小泉武助行商開始
1738 近江屋新助商店設立
1871 近代創業 立木屋森之助商店開設(大阪)
1904 社章を❖に制定。「小泉合名会社」設立
1941 株式会社小泉商店設立
1943 大阪で航空機ゲージの加工販売業・五光精機工業を買収し、五光精機工業株式会社設立

1946 社名を「小泉産業株式会社」に変更
 電気、ガス、石油器具を主とした製造卸業を開始
1953 東京営業所開設
1957 照明市場へ本格参入
1961 広島営業所、福岡営業所開設
1962 名古屋営業所開設
1967 家具市場へ本格参入

1716

1953 燃料ルートから家電ルートへ 石油コンロ

昭和28年、石油を燃料とする新しい調理器具、石油コンロを開発。この種の商品は燃料店で販売されていましたが、当社が初めて電気店ルートで販売を開始し、予想を超える大ヒットとなりました。



1965 デザイン豊かなあかりで暮らしを楽しく インテリア照明

昭和30年代、照明はまだただ照らすだけの道具でした。コイズミは暮らしに夢と豊かさを提供するため「あかりはインテリア」のキャッチフレーズのもと、照明器具にデザイン性を吹き込み、選ぶ楽しみや使う喜びにあふれる華やかな照明の分野を築きました。



1967 料理のできるダイニングテーブル クックテーブル「晚餐」

住居の洋風化に合わせてダイニングテーブルを販売するなかで、コイズミは調理の不便さに着目。ガスコンロの準備の手間をいかに省くか。こんな出発点から料理のできるダイニングテーブル「晚餐」が開発されました。発表直後から新しい生活提案として爆発的にヒットしました。



1971 照明器具付学習机 ライダーデスク

昭和41年、めざましい経済発展によって人々の生活にゆとりが生まれ、教育熱が高まりました。これにともなって子ども部屋、勉強机の需要が活発になってきました。コイズミは、自社の照明技術を活かして、業界初の「蛍光灯付学習机・蛍雪」を発売。46年には蛍光灯+白熱灯の「ライダーデスク」を発表。仮面ライダーのキャラクター人気と合わせ空前の大ヒットとなりました。



1973 年間通じて使える新コタツ 家具調コタツ「四季の集い」

昭和48年には家具調コタツ「四季の集い」を開発。それまでのコタツの概念から離れ、インテリア性の高い座卓に暖房機能を付加した製品は、年間を通じて使える全く新しいジャンルの家具として一世を風靡しました。



1978 棚を外せば高校まで 6・3・3で12年

それまで学習机と言えば、本体と棚の一体型が主流でした。コイズミは上級生になれば、平机として永く使えるよう棚の取り外しと素材・構造の耐久性を実現し、「6・3・3で12年」のキャッチコピーとともに、広く普及しました。



1978 大阪商工会議所から「企業百年」で表彰を受ける
1981 (株)マテック(現:コイズミ照明デバイス(株))、(株)ハローリビング設立
1986 CIシステム導入(ヒカリブランドからコイズミブランドへ転換)
1987 コイズミ国際学生照明デザインコンペ創設
1989 新創業 商事事業部門分離(小泉成器(株)設立)

1978

1987 学生を対象とした世界唯一の照明コンペ コイズミ国際学生照明デザインコンペ

1987年、若き人材の育成と照明文化の普及を目的に、世界の学生を対象とした照明のデザインコンペを創設。他に類を見ない当コンペは、たくさんの方々の賛同をいただきながら、以来25年間に世界42カ国、3万人を超える学生が参加。受賞者たちは照明、建築、インテリアなど各界で活躍しています。



1988 時代を変えた省エネ照明 インバータ照明器具

省エネの潮流を背景として、高効率、静音、瞬時点灯などの特長を持つ照明のインバータ回路が開発されましたが、コイズミは専門業界でいち早く製品化に取り組み、充実の品揃えで皆様のご要望にお応えしました。



1990 学習机の新しい常識 インバータデスク

照明の分野で早くからインバータ器具の開発に取り組んでいたコイズミは、学習デスクの照明にも業界に先駆けてインバータライトを導入。これによってデスクの新しいスタンダードを確立しました。



1991 直営照明器具製造工場・コイズミライティング(株)設立
1995 コイズミサンギョウ(タイランド)LTD.設立
1999 コイズミ物流(株)設立

1991

1990 体感型照明ショールーム コイズミライティングシアター/イズム

照明器具から出る光がどんな空間をつくり出すか、これが商品を見るだけではわからない照明選択の泣き所でした。コイズミはショールームづくりに「体感」の概念を導入し、従来のコーディネート中心の考え方に新風を吹き込みました。各種のシミュレーション装置によって納得のいく器具選びが実現しました。



1994 ファンクション&コンパクト 生活賢具

80年にコイズミが打ち出したコンセプト「家具=生活道具」は、常に暮らしを見つめる姿勢から生まれたものです。そして94年、ついに次のステージのキーワード「生活賢具」が生まれました。発売されたアイテムはすべて、知恵のある生活道具としてお客様を唸らせました。



1998 その空間に最適な光を生み出す E.L.H.

住宅のそれぞれの空間に必要な光はどんな光か。この課題に真正面から取り組んだ製品群がE.L.H.(Environment Lighting Harmony)です。目的配光と高効率化を独自の配光制御技術によって高度な次元で両立したシリーズです。以降、本シリーズは毎年拡充され、その後の住宅照明のあり方に大きな影響を与えました。



2000 中国 東莞事務所開設
2001 照明事業 ISO9001認証取得 中国 大連事務所開設 P.T.コイズミインドネシア設立
2002 ISO14001認証取得 コイズミ情報システム(株)、小泉産業(香港)有限公司設立

2000

2003 照明のワールドワイドデザイン D-ACTION

コイズミ独自のグローバルなネットワークを活かした世界のトップデザイナーによるシリーズです。クリエイターの圧倒的な個性、洗練されたデザインとともに明確な機能性も備えています。



2003 学習家具のワールドワイドデザイン K-ACTION

子どもの生活研究をベースにデザイン活動を行うイタリアのデザイナーと、子ども部屋家具のノウハウを持つコイズミのコラボレーションから生まれた新ジャンルの製品は、これまでの学習家具の流れを一変させるものとして国内外から大きな期待が寄せられました。



2006 21世紀の学習家具のトレンド ステップアップデスク

「机+上棚」から「机+書棚」への発想転換。これによって机と書棚が合体式、分離式どちらでも使えるようになり、お子様の成長に合わせてレイアウトも使い方も自由自在にステップアップできるようになりました。翌年発表された業界の新製品の主流は、ほとんどがこの方式となりました。



2007 あかり文化を創造する新拠点 OBAL

光の探究は照明専門メーカーとしての使命です。2007年夏、コイズミは光の本質を探る独自の研究施設を開発し、東京ショールーム上層階に「OBAL」と命名して開設しました。国内外のクリエイターや異業種各社と手を携え、空間の可能性を探り続けています。



2005

2005 家具事業 ISO9001認証取得
2006 照明・家具事業を分社 小泉産業(株)を持株会社とするグループ経営体制へ移行 克茲米商貿(上海)有限公司設立
2008 東莞克茲米家電科技諮詢有限公司設立
2009 東莞小泉照明有限公司設立

2010

2010 青垣コイズミ照明(株)設立 小泉家具(大連)有限公司設立
2012 コイズミライティング(株) LED工場開設
2013 照明提案型スタジオ「KLOS」 グランフロント大阪に開設 (株)ホリウチ・トータル サービスがグループ加入

2008 世界で初めて製品化に成功 超高演色LED

2008年、環境の時代の最先端の光源であるLEDを搭載した「cledy」シリーズを発表。2009年には、山口大学との共同研究により、平均演色評価数(物の色を自然に見せる度合)97という驚異的な性能を世界に先駆けて開発。「快適な視環境づくり」をめざすコイズミが、LEDの新たなステージを築きました。



2010 電動ベッドの先進機能 らくアップモーション

高齢者の寝起きをサポートする、コイズミの電動ベッドの動作機能「らくアップモーション」。中でも背部が上がってきたも脚部をフラットにする「フットフラット」機能は、従来の2モーターでなく1モーターで動作(特許申請中)。新開発のシンプルな機構が、さまざまなメリットを生み出しています。



2011 光と化学の融合 LED導光板照明

アクリルの端面に光を当て、アクリル面全体を光らせる「エッジライト方式」。この方式は、発光面の均質性や光のロスが課題でした。コイズミは、この課題の解決策で特許を持つ住友化学様とコラボレーション。高効率、均質性に加え、光の柔らかさを備えたLED導光板照明を発売しました。



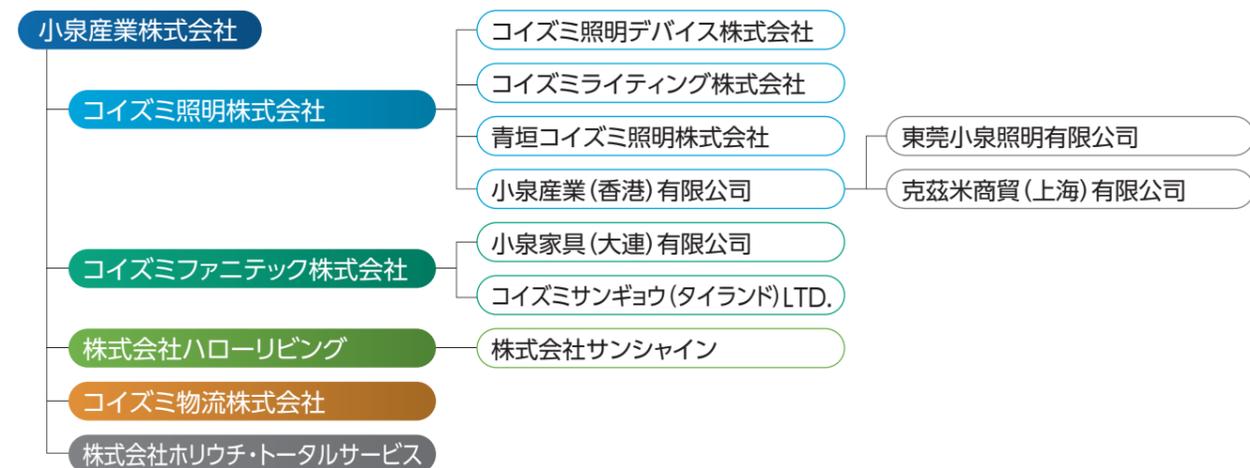
2013 LED照明提案型スタジオ KLOS

KLOS(コイズミライティング・オペレーションスタジオ)は、LED照明の最適化提案や最新の技術紹介など、お客様との双方向コミュニケーションを通じて課題解決するイノベーションの「場」。外光をブラインドとデザインウォール(カーテン)で制御し、施設内の表情を変えることで施設全体で光のあり方を表現することができます。



小泉産業株式会社グループ各社の概要

小泉産業株式会社グループ 2014年度 小泉産業株式会社グループの体制



小泉産業株式会社
 商号 小泉産業株式会社
 本社所在地 〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-7
 代表者 代表取締役社長 梅田 照幸
 創業 1716年(享保元年)
 設立 1943年6月25日
 資本金 1,575百万円
 従業員 40名(単体)
 事業内容 持株会社
 子会社 17社(うち連結対象 10社)
 売上高 1,488百万円(単体)

コイズミ照明株式会社
 商号 コイズミ照明株式会社
 本社所在地 〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-7
 代表者 代表取締役社長 梅田 照幸
 設立 2006年4月1日
 資本金 450百万円
 従業員 617名
 事業内容 照明器具の企画・開発・製造・販売
 売上高 34,459百万円

コイズミ照明デバイス株式会社
 商号 コイズミ照明デバイス株式会社
 本社所在地 〒578-0935 大阪府東大阪市若江東町6-7-46
 代表者 代表取締役社長 梅田 照幸
 設立 1981年6月8日
 資本金 10百万円
 従業員 27名
 事業内容 LED用部材・電子安定器・ランプ・他照明器具構成部品の販売及び輸出入、照明器具組立
 売上高 11,883百万円

コイズミライティング株式会社
 商号 コイズミライティング株式会社
 本社所在地 〒529-1512 滋賀県東近江市大塚町1289-2
 代表者 代表取締役社長 村上 貴英
 設立 1966年10月20日
 資本金 100百万円
 従業員 121名
 事業内容 照明器具の製造
 売上高 2,410百万円

青垣コイズミ照明株式会社
 商号 青垣コイズミ照明株式会社
 本社所在地 〒669-3841 兵庫県丹波市青垣町口埴久町733-5
 代表者 代表取締役社長 谷垣 正則
 設立 2010年4月5日
 資本金 80百万円
 従業員 116名
 事業内容 照明器具の製造
 売上高 1,888百万円

小泉産業(香港)有限公司
 商号 小泉産業(香港)有限公司
 本社所在地 Units A-B, 26th Floor, 8 Hart Avenue, Tsimshatsui, Kowloon, Hong Kong
 代表者 董事長 中島 誠一
 設立 2002年3月11日
 資本金 HK\$2,078,000
 従業員 7名
 事業内容 照明器具の企画・開発・製造・販売
 売上高 HK\$215,434,908

東莞小泉照明有限公司
 商号 東莞小泉照明有限公司
 本社所在地 No.12, Information & Industry Garden, Xihu District, Shilong Town, Dongguan City, Guangdong Province, P.R.China
 代表者 董事長 中島 誠一
 設立 2009年7月20日
 資本金 HK\$2,000,000
 従業員 200名
 事業内容 照明器具の開発設計・組立製造・販売
 売上高 138,347千円

克茲米商貿(上海)有限公司
 商号 克茲米商貿(上海)有限公司
 本社所在地 RM1105.Tower NO.440, Zhong Shan RD.(S.2) Shanghai.China
 代表者 董事長 杉本 健
 設立 2006年11月15日
 資本金 US\$400,000
 従業員 45名
 事業内容 照明器具の企画・販売他
 売上高 72,283千円

東莞克茲米家電科技諮詢有限公司
 商号 東莞克茲米家電科技諮詢有限公司
 本社所在地 3F, No.28, Wenquannan Lu, Shilong Town, Dongguan City, Guangdong Provinces, China
 代表者 董事長 梅田 照幸
 設立 2008年6月2日
 資本金 US\$250,000
 従業員 39名
 事業内容 家電・照明器具の企画・開発・照明設計、品質管理等のコンサルティングサービス
 売上高 4,529千円
 ※2014年 東莞小泉照明有限公司に合併

コイズミファニテック株式会社
 商号 コイズミファニテック株式会社
 本社所在地 〒557-0063 大阪市西成区南津守2-1-30
 代表者 代表取締役社長 永安 勝壽
 設立 2006年4月1日
 資本金 100百万円
 従業員 88名
 事業内容 学習環境家具及び介護機器等の企画・開発・製造・販売
 売上高 7,201百万円

小泉家具(大連)有限公司
 商号 小泉家具(大連)有限公司
 本社所在地 12/F, Senmao Building, 147 Zhongshan Road, Dalian, China
 代表者 董事長 川上 隆司
 設立 2010年5月5日
 資本金 HK\$210,000
 従業員 4名
 事業内容 学習環境家具・インテリア雑貨の小売・卸売
 売上高 2,686千円

コイズミサンギョウ(タイランド)LTD.
 商号 コイズミサンギョウ(タイランド)LTD.
 本社所在地 26th Floor ITF Tower, 140/64 Silom Road Bangrak Bangkok 10500
 代表者 代表取締役社長 宗本 邦嗣
 設立 1995年5月24日
 資本金 THB5,000,000
 従業員 8名
 事業内容 家庭用家具・店舗用家具・特注家具・店舗用仕器の企画・開発・製造・販売
 売上高 THB82,894,360

株式会社ハローリビング
 商号 株式会社ハローリビング
 本社所在地 〒579-8025 大阪府東大阪市宝町12-5
 代表者 代表取締役社長 石尾 泰裕
 設立 1981年7月2日
 資本金 20百万円
 従業員 35名
 事業内容 住宅設備機器の販売・取付工事
 売上高 2,561百万円

株式会社サンシャイン
 商号 株式会社サンシャイン
 本社所在地 〒813-0034 福岡市東区多の津3-7-29
 代表者 代表取締役社長 石尾 泰裕
 設立 1975年7月1日
 資本金 10百万円
 従業員 11名
 事業内容 住宅設備機器の販売・取付工事
 売上高 710百万円

コクブライツ株式会社
 商号 コクブライツ株式会社
 本社所在地 〒899-5102 鹿児島県霧島市隼人真孝202-2メゾン隼人1-C
 代表者 代表取締役社長 石尾 泰裕
 設立 1985年3月20日
 資本金 10百万円
 従業員 4名
 事業内容 住宅設備機器の販売・取付工事
 売上高 146百万円
 ※2014年 株式会社サンシャインに合併

コイズミ物流株式会社
 商号 コイズミ物流株式会社
 本社所在地 〒579-8025 大阪府東大阪市宝町12-5
 代表者 代表取締役社長 西原 久人
 設立 1999年5月25日
 資本金 50百万円
 従業員 106名
 事業内容 貨物自動車運送取扱事業、貨物自動車運送事業、倉庫業、物流システム開発販売業務、物流コンサルタント業務、引越し・据付業務、その他上記に付帯する関連業務
 売上高 4,989百万円

コイズミ情報システム株式会社
 商号 コイズミ情報システム株式会社
 本社所在地 〒556-0005 大阪市浪速区日本橋5-8-21
 代表者 代表取締役社長 権藤 浩二
 設立 2001年10月1日
 資本金 30百万円
 従業員 49名
 事業内容 IT関連のソフト開発及びコンピュータ機器販売
 売上高 1,166百万円
 ※2014年 小泉産業株式会社に合併

株式会社ホリウチ・トータルサービス
 商号 株式会社ホリウチ・トータルサービス
 本社所在地 〒143-0022 東京都大田区東馬込2-19-11
 代表者 代表取締役社長 権藤 浩二
 設立 2003年4月1日
 資本金 70百万円
 従業員 82名
 事業内容 ホテル、会社施設等への家具・什器・設備等の搬入設置業務
 売上高 2,323百万円
 ※2013年度実績

編集後記
 このレポートは当社グループの1年間を振り返り、事業活動をはじめとする社会や市場への対応の状況やCSRへの取り組みについてお伝えするものです。
 昨年度も当社グループでは新たな動きやさまざまな変化がありました。その中でも事業を通じて各社が継続的にめざしている事柄について、その代表的な取り組みを当レポートで紹介させていただきます。
 照明事業では新たなパートナーを広げるためのKLOSの開設と、照明設計による快適空間の追求。家具事業では製品開発に込めた快適生活へのこだわりと、お取引先様とのパートナーシップ構築。物流事業、販売工事事業においては環境負荷低減につながる取り組み。グループ全体では従業員の成長をはじめ、社会の人との結びつきを大切に考えた取り組みなど、実際に関わった方々に多数ご登場いただき、できるだけありのままの姿が伝わる編集を心掛けました。是非ご一読いただき、当社グループのご理解につながれば幸いです。
 末筆となりましたが、編集に際していただきました、たくさんの方々のご協力に心より感謝申し上げます。
 グループ経営統括部 総務室 CSRグループ

小泉産業株式会社

発行:2014年7月

〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-7

TEL.06-6262-1391 FAX.06-6262-1490

E-mail csrinfo@koizumi.co.jp

<http://www.koizumi.co.jp/>



この印刷物に使用している用紙は、岩手県の森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



適切に管理された森林で生産された木材を使ったFSC®認証紙を使用しています。



この印刷物は植物油インキを使用しています。



印刷工程では、有害な廃液を出さない水なし印刷方式で印刷しています。